

「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」

令和 6 年度研究開発実施報告書
(第 3 年次)

北海道大樹高等学校

目 次

I 概要

- 1 大樹高等学校グランドデザイン
- 2 ロジックモデル
- 3 研究実績報告

II 研究内容

- 1 令和7年度（地域探究科）教育課程の編成
 - (1) 令和7年度（地域探究科）教育課程表
 - (2) 「総合的な探究の時間（キャリアデザイン）」及び学校設定科目「地域デザイン」の全体計画
 - (3) 「総合的な探究の時間（キャリアデザイン）」年間計画・単元構造図
 - (4) 学校設定科目「地域デザイン」年間計画・単元構造図
 - (5) 学校設定科目「大樹高 P l u s 」年間計画
- 2 総合的な探究の時間の取組
 - (1) インターンシップ
 - (2) 台湾見学旅行
 - (3) 進路強化研修
 - (4) 室蘭工業大学連携授業
- 3 学校設定科目「地域デザイン」
 - (1) 地域探究活動
 - (2) 航空宇宙産業に関する学習(エアロスペーススクール 2024)
 - (3) 航空宇宙産業に関する学習(北海道宇宙サミット 2024・連携教育会議)
(和歌山県立串本古座高等学校視察、和歌山大学訪問)
- 4 大樹スタンダードにおける取組
 - (1) C S T（コミュニケーション・スキル・トレーニング）
 - (2) 共生社会ワークショップ

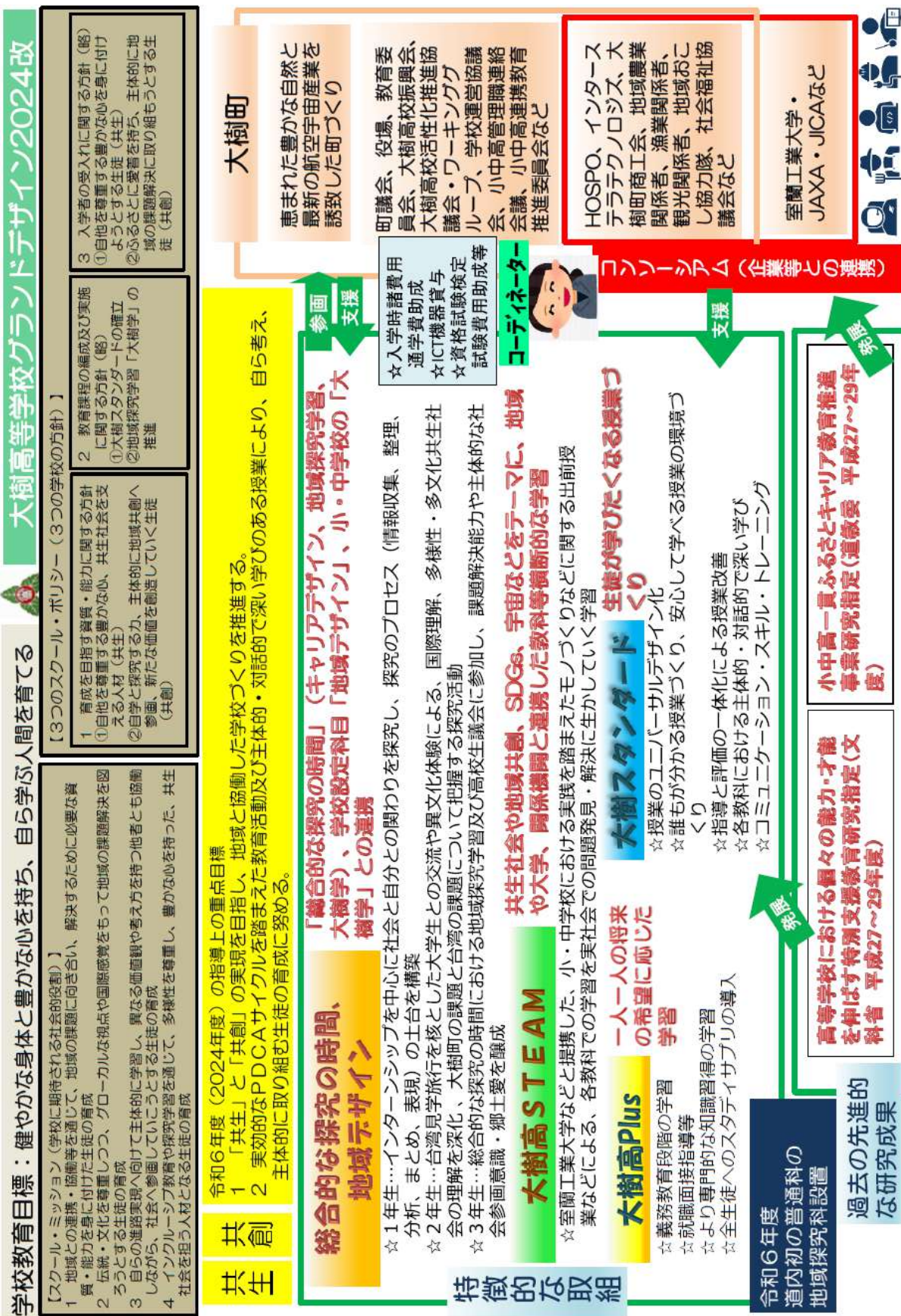
III 成果概要図

IV 関係資料

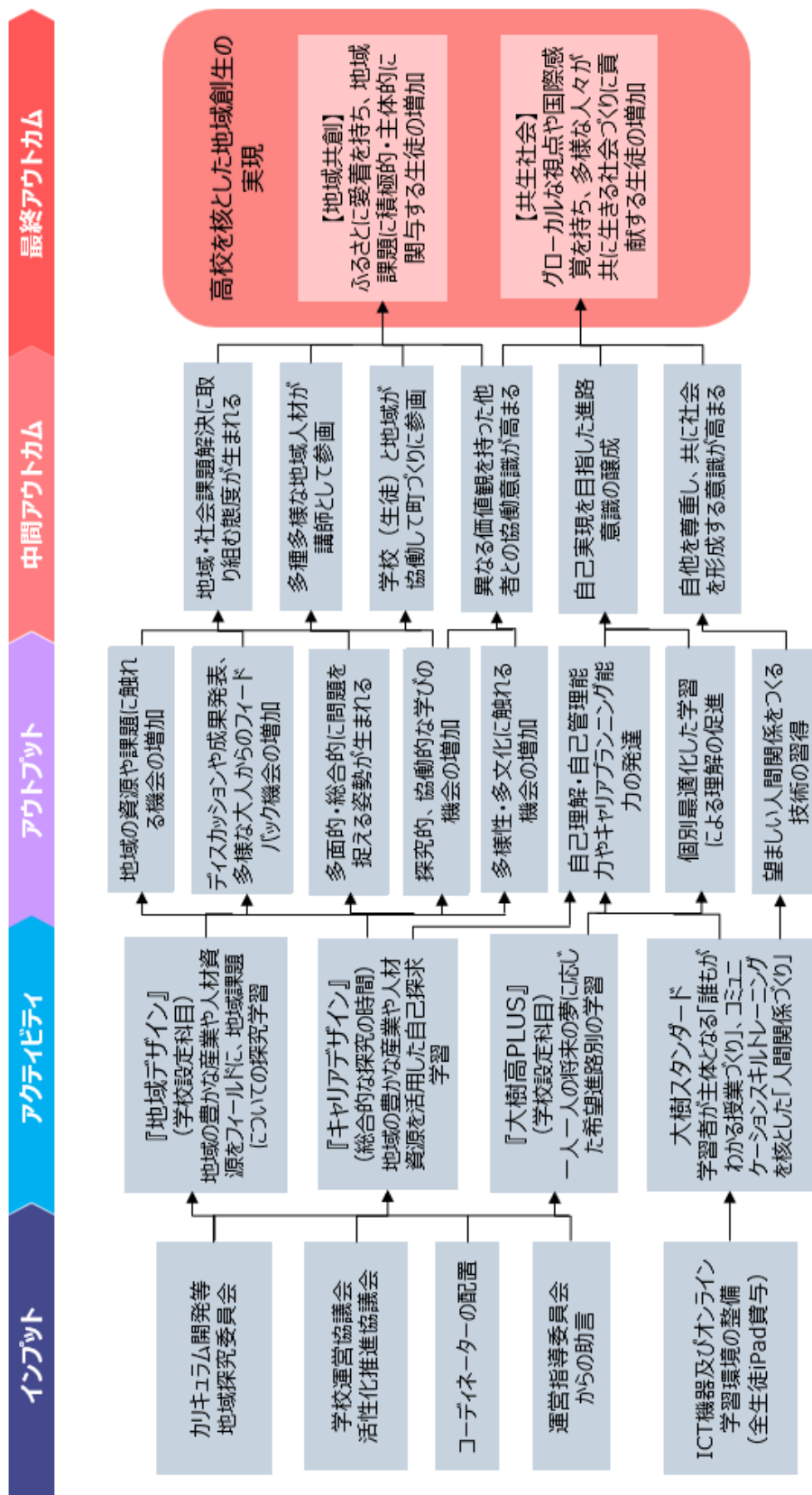
- 1 学校パンフレット、学校 PR ポスター
- 2 高校生議会「広報たいき」より抜粋
- 3 大樹学 NEWS

I 概要

1 大樹高等学校グランドデザイン



ロジックモデル（北海道大樹高等学校）



事業結果説明書

(1) 事業の実施日程

事業項目	実施日程（令和6年4月1日～令和7年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施												
学校設定科目「地域デザイン」の カリキュラム開発及び実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
学校設定科目「地域デザイン」と 総合的な探究の時間の体系的なプ ログラム作成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
地域探究委員会		●	●			●	●	●	●	●	●	●
関係機関との連携協力体制の構築・維持												
コンソーシアム会議		●	●					●			●	
学校運営協議会			●					●			●	
先行事例調査研究（他校視察等）							●			●		
出前授業やフィールドワーク等で の外部機関との連携	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター												
コーディネーター（神宮司氏）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター（原田氏）												
新学科設置に向けた説明会等の実施												
近隣中学校への訪問（中学生・保護 者・中学校の教員）		●		●	●		●		●			
オープンハイスクール					●							
成果発表・成果普及												
探究成果発表会				●								
高校生議会での提言及び道教委主 催「探究」チャレンジプロジェクト での成果発表							●			●		
成果検証												
運営指導委員会による評価					●						●	
生徒の変容を図る自己評価				●					●			

(2) 事業の実績の説明

ア カリキュラムの検討内容

(7) 教育課程の編成について

本事業に係る教科・科目	1 年	2 年	3 年
総合的な探究の時間	1 単位	1 単位	1 単位
学校設定科目「地域デザイン」		2 単位	1 単位

(4) 学校設定科目「地域デザイン」について

教科・科目名	総合・地域デザイン
育成を目指す 資質・能力	1 共生 ①自己と他者を大切にする心 ②他者と協調する力 ③地域を支える力 2 共創 ①自ら学ぶ力 ②探究する力 ③主体的に他者と地域に参画する力 ④価値を見出したり価値付けたり価値を創造する力
科目の目標	1 地域の多様な産業を理解し、生活との関わりについて考えることができる。 2 地域課題の解決に向け、立てた仮説の検証・改善を繰り返すことで、地域や社会の課題を理解することができる。 3 地域の課題解決に向けた取組を校内外で発信し、地域の発展・活性化に貢献することができる。
科目の内容	大樹町の様々な産業や地域産業を支える地域の人々と関わり、1学年の「総合的な探究の時間」での学びを踏まえ、生徒自身が関心を持つ地域課題についての探究活動に取り組む。フィールドワークを通して地域の人々と対話する中で、地域や社会の課題は様々な事象が複雑に絡み合っていることを理解し、対話と協働によって地域の魅力を発見し、課題を解決する力を身に付ける。 1 地域人材を活用したフィールドワークを通して、地域産業（福祉・教育、農業・漁業・林業、宇宙・科学技術、商業・観光）について学習する。それぞれの産業の現状と課題を理解し、生徒自身の生活との関わりについて考える。 2 大樹町と友好交流協定を締結している台湾大樹区及び義守大学と交流を行い、「日本と台湾」「大樹町と台湾大樹区」などの比較から、海外における地域の特徴やよさ、地域の課題について、海外で生活している人々との関わりから日本や大樹町との類似点や相違点を見出し、広い視点で地域への理解をより深める。 3 2学年はグループ、3学年は個人で地域の魅力や課題を発見する活動をする。生徒が立てた仮説をもとにフィールドワークを行い、地域の課題解決に向け、立てた仮説の検証・改善を繰り返す。 4 地域の課題解決に向けた取組を探究成果発表会等で校内外に発信し、地域の発展・活性化に貢献する。
単位数	3 単位（2 年 2 単位、3 年 1 単位）
課程・学科 学年	全日制課程・地域探究科 第2学年、第3学年

(ウ) 学校設定科目「地域デザイン」年間指導計画について

□第2学年

月	章・単元	学習内容	時数
4	オリエンテーション	地域デザインの目的及び学習内容の理解、地域への興味関心があるテーマの設定、振り返りノートを作成方法について学ぶ。	2
	大樹町の課題	大樹町長から大樹町の現状について学ぶ。 (大樹町の「福祉・教育」、「農業・漁業・林業」、「宇宙・科学技術」、「商業・観光」(以下「4分野」という。)の説明については、大樹町役場などの協力を得て、各課長などに講話いただく。)	8
6	大樹町の福祉・教育	町の福祉・教育の現状と課題を理解し、生活との関わりについて考え、地域の魅力や新たな課題に気付く。	8
	大樹町の農業・漁業・林業	町の農業・漁業・林業の現状と課題を理解し、生活との関わりについて考え、地域の魅力や新たな課題に気付く。	8
7	大樹町の宇宙・科学技術	町の宇宙・科学技術の現状と課題を理解し、生活との関わりについて考え、地域の魅力や新たな課題に気付く。	4
8	探究成果発表会参加	3年生の発表会に参加し、探究活動の方法やプレゼンテーションの技術を学ぶ。質疑応答等を通して、地域の課題への理解を深める。	8
9	大樹町の商業・観光	町の商業・観光の現状と課題を理解し、生活との関わりについて考え、地域の魅力や新たな課題に気付く。	6
10	大樹区・義守大学との交流会準備	大樹町の4分野についての特徴やよさ、地域の課題について、グループに分かれ、紹介する準備を行う。「日本と台湾」、「大樹町と台湾大樹区」などの比較から、広い視点で地域への理解を深める。	8
12	分野別グループ探究(課題設定・事前調査)	4分野のテーマごとにグループを作り、地域の課題解決に向けた仮説を立て、情報を収集し、仮説検証のために必要なフィールドワークを考える。	4
1	分野別グループ探究(フィールドワーク)	フィールドワークを行い、仮説の検証を行う。	12
	分野別グループ探究(まとめ・報告会準備)	課題設定から仮説検証までの流れを踏まえて、発表のアウトラインを作成し、発表のアウトラインをもとに、報告会資料を作成する。別のグループと意見交換し、ブラッシュアップを図る。	
2	分野別グループ探究(報告会・振り返り)	テーマごとに報告会を行う。積極的に質疑応答に参加し、地域の方からも助言をいただく。報告会終了後、分野別グループ探究活動を振り返り、個人探究にどのように活かすか考える。	4
3	個人探究(課題設定・活動計画作成)	分野別グループ探究をもとに、地域の課題解決につながるテーマを個人で設定する。地域の課題解決に向けた仮説を立て、情報を収集し、仮説検証のために必要なフィールドワーク等の活動計画を立てる。	4

□第3学年

月	章・単元	学習内容	時数
4	個人探究（事前調査）	フィールドワークに向けて、必要な情報を収集し、課題解決のために立てた仮説の提案方法を考える。	4
5	個人探究（フィールドワーク・まとめ）	フィールドワークにおいて、立てた仮説を提案したことで得られた新たな情報をもとに、自身の仮説を改善する。個人テーマの設定から立てた仮説の改善までの活動を整理する。	6
	個人探究（中間発表会）	少人数のグループで、活動の中間報告を行い、質疑応答を通して互いの仮説を改善し、改善した仮説の検証に向けた調査計画を考える。	2
6	個人探究（追加調査）	改善した仮説の検証や、地域の課題解決のための活動・提案を行う。仮説の検証や活動・提案をとおして得られた事実を整理し、自分の考えの変化や、地域にどんな働きかけができたかを整理する。	6
7	個人探究（報告会準備）	課題設定から仮説検証までの流れを踏まえて、発表のアウトラインを作成し、報告会資料を作成する。報告会の前に、生徒間で意見交換し、ブラッシュアップを行う。	6
	探究成果報告会・振り返り	個人で探究成果の発表を行う。積極的に質疑応答に参加し、地域の方からも助言をいただく。これまでの探究活動を通して、自分自身で感じられた変化や、得られた気づきを今後の生き方・在り方にどう活かすか考える。	6

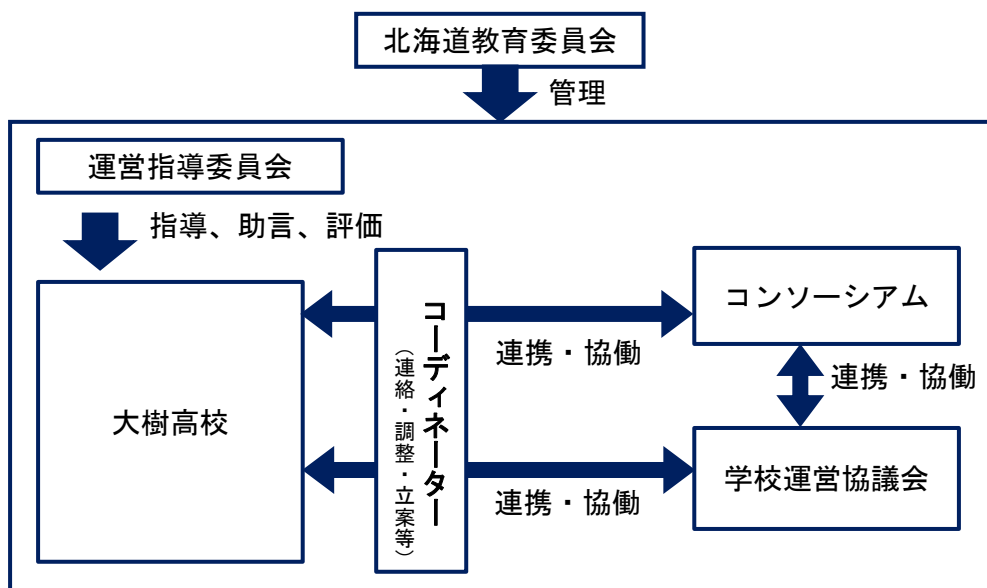
(I) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 学校設定教科・科目の実施により、地域の基幹産業である第一次産業をはじめとする地域の多様な産業を題材に、他者と協働しながら地域の課題解決に向けて探究することができた。
- 地域の産業について、大樹町役場などの協力を得るため、大樹町長と来年度のオリエンテーションの在り方等の相談をするなど、町と連携を十分に図ることができた。次年度からは、町の各分野担当者から、大樹町と高校生が取り組むべき課題の提示をオリエンテーションで実施する。
- 大樹町が取り組んでいる航空宇宙産業誘致による町づくりに主体的に参画する生徒の育成を目指すため、航空宇宙ボランティアサークルを立ち上げ、地域イベントや北海道宇宙サミットに参加した。また、北海道宇宙サミットでは、和歌山県立串本古座高校、熊本県立国東高校とミーティングを行い、今後も「宇宙」をキーワードに連携を図る。
- 航空宇宙連携授業等を視野に和歌山県立串本古座高校を視察した。
- 航空宇宙連携として、和歌山県で行われる宇宙シンポジウムに参加し、高校生の実践的な宇宙教育について、今後の国内展開を目指して他校と情報交換する。

イ 管理機関における事業の実施体制や管理方法

(ア) 実施体制

下図のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理。



(イ) 事業の管理方法

北海道教育委員会（以下「道教委」という。）は、運営指導委員会及びコンソーシアム会議に参画することにより、事業の進捗状況等を把握するとともに、学校訪問やWeb 会議サービスを活用し、本事業が汎用性の高い研究となるよう指導・助言を行う。

□ 運営指導委員会

道教委及び外部有識者等を構成員とした「運営指導委員会」を設置し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。運営指導委員会は年2回開催し、進捗状況を確認する。

□ コンソーシアム会議

コンソーシアムの全構成員参加による会議を年3回開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。

(ロ) 生徒の研究成果発表会

道教委、コンソーシアム構成員及び地域住民などに公開する生徒の研究成果発表会を年1回行い、生徒の学びの成果について指導助言、評価を行う。

(ハ) 教育局による学校訪問

道教委の出先機関である十勝教育局（大樹高校が所在する地域に所在）の指導主事が年2回訪問し、事業の取組状況の把握や効果的な取組について指導助言を行う。

(ニ) 今年度の成果と課題及び次年度への反映方針

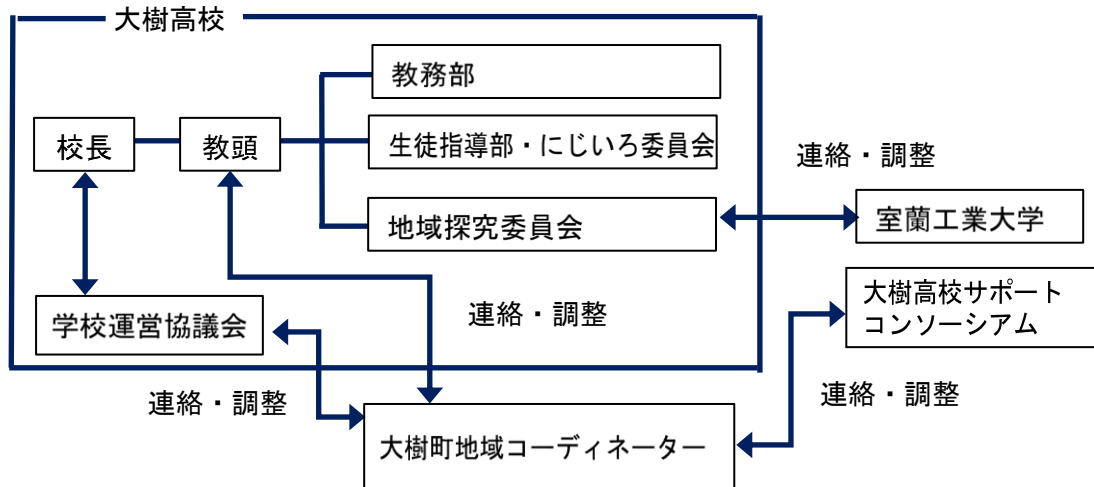
生徒の研究成果発表会では、道教委、コンソーシアム構成員及び地域住民などに公開することができた。発表会后、道教委、コンソーシアム構成員から、中学校との連携を深めることなど、今後の取組について指導助言をいただいた。

本事業終了後も、町との連携を深め、学校運営協議会委員や地域住民と共に、更なる内容の充実を目指して、生徒の研究成果発表会など、様々な場面で小中高校間の連携のできる取組を増やしていく。

ウ 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

(ア) 実施体制

下図のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理。



(イ) 事業の管理方法

□ 校務分掌（校内委員会）

- ・教務部…教職員研修や授業評価等により、授業のユニバーサルデザイン化及び多様性
- ・共生社会への理解の深化を推進する。
- ・生徒指導部・にじいろ委員会…コミュニケーションスキルトレーニングを中心に、教育相談・インクルーシブ教育を推進する。
- ・地域探究委員会…総合的な探究の時間を中心とした各学年の探究学習について、企画
- ・立案、進捗状況の管理等を行い、中心となって推進する。複数教科が連携した教科等横断的な学習を推進する。

□ 大樹町地域コーディネーター

サポートコンソーシアム（地域・企業・大学等外部の教育的人材）を学校教育活動へ活用するコーディネート・ファシリテート及び地域へ向けた教育活動・成果の周知・広報を行う。

□ 大樹高校サポートコンソーシアム

地域コーディネーターの企画・連絡調整に従い学校の探究学習を中心とした教育活動に参画し生徒へ指導・助言等を行う。

□ 学校運営協議会

地域の活動と学校教育活動との協働について協議し、学校への助言・支援・情報提供等を行う。

(ウ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 総合的な探究の時間委員会と STEAM 委員会を統合し、地域探究委員会を設置するなど校内体制を構築した。
- 大樹町での探究活動を推進するに当たり、生徒の移動手段の確保のため、町教委と連携する必要がある。
 - ・地域探究委員会とコーディネーターが連携し、更なる活動の充実を目指す。

エ 運営指導委員会の体制および取組

(7) 体制

所属	氏名	主な実績
大樹町 教育委員会	沼田 拓己	○R4～教育長 小学校長としての長年の経験により、地域の教育を熟知しており、教育長として地域との協働による人材育成を推進
北海道大学	山中 康裕	○大学院地球環境科学研究院教授 環境教育を専門としており、地球温暖化に関するモデリングや2050年の北海道を考えた地域づくりなどの実践
北海道大学	篠原 岳司	○大学院教育学研究院准教授 北海道教育推進会議高等学校専門部会副会長、学校経営論を専門としており、地域と連携・協働した実践について多数研究
北海道 教育大学	赤間 幸人	○教職大学院・教育学部札幌校特任教授 元道教委学校教育監、元道立高校長、道立高校長在任時に、「探究的な学習」に重点をおいた教育課程の編成・実施の実践
釧路市 教育委員会	岡部 義孝	○H29～教育長 教育長としての長年の経験により、地域の教育を熟知しており、教育長としても地域との協働による人材育成を多数実践
岩見沢市 教育委員会	吉永 洋	○R4～教育長 中学校長を歴任するとともに市の青少年センター所長を経験するなど、地域の教育を熟知しており、教育長として地域との協働による人材育成を推進
北海道教育 庁	滝田 尚誠	○学校教育局高校教育課課長補佐 地域創生や高校の魅力化に取り組む内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」を担当
一般社団法人 当別青年会 議所	松岡 宏尚	○北海道教育推進会議高等学校専門部会委員、当別青年会議所委員長、当別コミュニティ・スクール委員 当別高校地域コーディネーターなど学校と地域の連携に造詣が深い
SPACE COTAN 株式会社	小田切 義憲	○代表取締役社長 大樹町が所有する「北海道スペースポート」の運営会社であり、ロケット及び宇宙旅行等を目的とした宇宙船の打上支援事業等や、地域創生を含むビジネス機会の提供を行う。

(4) 取組

- ・事業の進捗に対する指導助言
- ・事業の改善・充実に向けた情報提供
- ・事業の成果検証、評価についての学校の自己評価の妥当性について評価
- ・成果発表会における生徒の学びの評価

(ウ) 今年度の成果と課題及び次年度への反映方針

年2回開催の運営指導委員会により、適切な指導・助言を受けることができた。運営指導委員会においては、成果として、令和5年度から大樹高校活性化推進協議会において、ワーキンググループを立ち上げ、月に1度、町教委課長、本校教頭、コーディネーター及び町役場課長で実施していること、年度当初に教職員全体で探究活動については教え過ぎないように、というコンセンサスを得ていることから、教職員は徐々に理解をしてきていることなどが挙げられた。課題としては、学校の取組が「宇宙」というところからトーンダウンした感じはあるが、「宇宙という特色について地域と取り組んでいる」ことが自然と表出するとよい、和歌山県の高校との連携についても、宇宙の学びを通して日々の学びに接続出来るとよい、などが挙げられた。

運営指導委員や道教委が来校した際に、町内中学校と連携、高校同士の連携、十勝管

内でのつながり、全国の地域探究科とつながるなど、助言を受けることができた。

これらの助言を参考に、令和6年12月に町内中学校において見学旅行報告会を実施、令和7年1月に東京都の私立富士見高校とオンラインで本校の探究活動を発表、令和7年5月に富士見高校が来校し交流予定、令和7年1月に和歌山県立串本古座高校を本校教員が視察し、今後の連携について検討した。

オ コンソーシアムの体制および取組

(7) コンソーシアムの体制及び連携・協力の考え方

本校と大樹町では、平成27年度から3年間、道教委より指定を受けた「小中高一貫ふろさとキャリア教育推進事業」の取組により、小中高が接続した学校運営協議会が整備されているが、小中学校で実現している地域学校協働本部の設置と地域学校協働活動推進員の配置が、高校では実現されていないことが課題となっていた。多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークの形成による地域学校協働活動を推進する体制が地域社会に関する学科としては適切と考えているため、地域学校協働本部の役割にあたるようなコンソーシアムの構築を推進している。また、地域の高校支援組織として町が管轄する大樹高校活性化推進協議会があり、地域の関係団体と連携及び協力を受けられる支援体制が整っていた。地域コーディネーターの斡旋により農業、漁業、商工業、観光、航空宇宙産業など多種多様な人材が本校の探究学習に個別に参画する体制ができており、必要に応じて構成員の拡大を行い、連携及び協力体制の強化と充実を図る。

(4) コンソーシアムの構成員

大樹町農業協同組合、南十勝森林組合、大樹漁業協同組合、大樹町商工会、中小企業同友会、SPACE COTAN株式会社、インターステラテクノロジズ、室蘭工業大学、他

(7) 取組

- ・「総合的な探究の時間」における個々の生徒の探究活動への支援
- ・「総合的な探究の時間」における地域講話、フィールドワークでの連携
- ・学校運営協議会等における本校教育活動への指導・助言

【令和6年度における具体的な取組】

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・町内事業所等でのフィールドワークへの協力・探究成果発表会での指導・助言・コンソーシアム構成員による本校教育活動への指導・助言 |
|---|

(I) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 地域コーディネーターの斡旋により農業、漁業、商工業、観光等、多種多様な人材が本校の探究学習に参画し、生徒の個別の探究活動とマッチングさせ、充実した学習を展開することができた。
- 今後、地域の課題解決に向けた生徒の活動がより充実するよう、組織的に持続可能な連携・協働体制を整備する必要がある。

カ コーディネーターの配置および活動内容

(7) コーディネーターの配置

- ・神宮司亜沙美（令和4年度からの継続配置）、原田裕人（令和5年度12月から配置）
- ・週の勤務日は2人合わせて、週5日、合計30時間程度（各担当者の勤務時間と内容は

時期によって変動)

- ・勤務形態は、高校との調整のための出勤を週2日程度とし、外部機関との調整・交渉等状況に応じてリモートワーク等を可能とする。
- ・地域との交流や調整が必要となるため、夕方・休日の勤務にも柔軟に対応する。

(イ) 活動内容

○ 神宮司 氏

- ・学校とコンソーシアム構成者との連絡調整
- ・探究学習の企画立案
- ・探究学習のコーディネート・ファシリテート
- ・教員向け研修の企画立案
- ・学校ウェブページ・SNS 等による学校情報の発信
- ・学校広報用パンフレット等の作成
- ・その他校長が必要と認める業務

○ 原田 氏

- ・原田氏の本来業務（（株）オレンジ・アンド・パートナーズ）の関係で東京都へ異動となったため、今年度の勤務は無し。（4月下旬から異動準備、6月から異動）

(ウ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- コンソーシアム構築に係る業務や探究学習の企画立案、学校広報用ポスター等の作成等について、本校教職員と連携して取り組むことができた。
- コーディネーター研修を通して他校コーディネーターとの連携・協力体制を構築し、本校教職員にも研修内容について情報共有することができた。
- 次年度も、総合的な探究の時間及び学校設定科目「地域デザイン」の教育プログラムの開発に主体的に取り組む必要がある。

キ 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況

(ア) 新学科の設置状況

本校新学科について、今年度4月に「地域探究科」が設置された。

(イ) 関係者への説明の実施状況

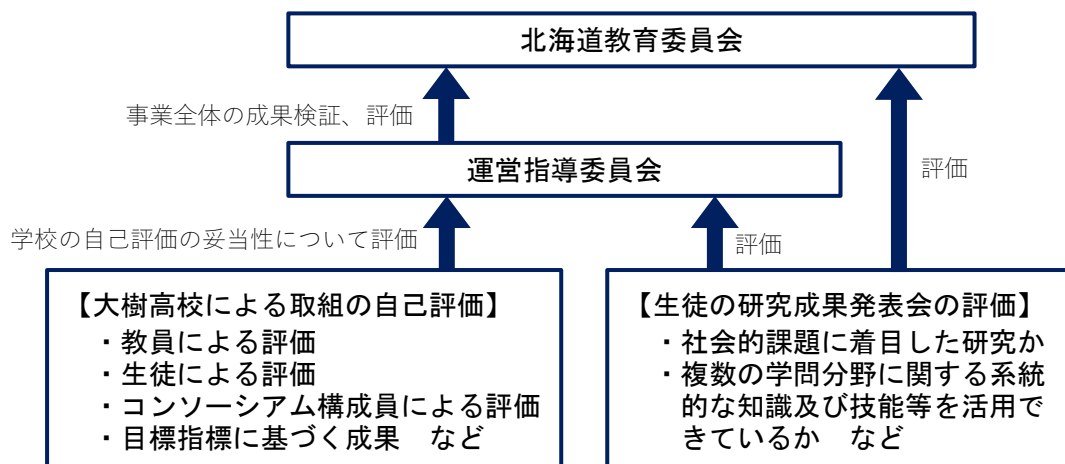
- ・近隣中学校を訪問して実施した学校説明会や本校で開催しているオープンハイスクールにおいて、本校の教育活動や新学科が目指す姿を周知した。
- ・本校ウェブページへの地域探究科通信の掲載、新学科設置を周知するためのパンフレット配布及び新聞への折り込みチラシなど、丁寧な情報提供に努めた。

(ウ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 普通科新学科に関する情報提供を丁寧に行うことが出来た。
- 今後も普通科新学科の設置等について、より一層の周知を進める必要がある。

ク 管理機関における事業全体の成果検証、評価

(7) 事業全体の成果検証、評価のための体制



(4) 事業全体の成果検証、評価の考え方

次の2つの方策により、事業全体の成果検証、評価を実施。

- 学校の自己評価を基に、運営指導委員会及び道教委が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

- ・ 学校において、教員、生徒及びコンソーシアム構成員を対象としたアンケート等による評価を基に本事業の取組について自己評価を行う。
- ・ 運営指導委員会において、学校の自己評価の妥当性について評価を行う。
- ・ 道教委において、「北海道高等学校学力学習状況等調査」を実施し、目標指標に基づく成果の検証を行う。

※本調査は毎年度の1学年が対象。これに加え、本校独自に各学年で同調査を実施し、本校に入学した生徒の1学年から3学年までの変化を把握する。

- ・ 上記を踏まえ、道教委において事業全体の成果検証、評価を行う。

- 生徒の研究成果を基に、運営指導委員会及び道教委が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

- ・ 年1回開催する生徒の研究成果発表会について、教員、コンソーシアム構成員、地域住民、道教委が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。
- ・ 社会的課題に着目した研究か
- ・ 複数の学問分野に関する系統的な知識及び技能等を活用できているか など

(ウ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 「総合的な探究の時間」授業アンケート（5段階評価）において、「積極的な姿勢で取り組めた」4.7（R5：4.3）、「わからないこと、聞きたいことを質問できた」4.7（R5：4.5）、「自分たちの考えをしっかりと伝えることができた」4.8（R5：4.6）、「今後の進路活動や将来に役立つと感じた」4.7（R5：4.6）など、生徒の学習意欲の向上につながっていると考えられる。

- 学習状況等調査12月実施結果の肯定的回答の割合の増加において、肯定的回答の割合増加が見られるなど、主体性や思いを表出する意欲が向上した。

（カッコ内は7月実施結果）

- ・ 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」84%（64%）

- ・「自分で興味・関心を持ったことは、授業に関係なく調べるなど知ろうとしている」100% (96%)
- ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」96% (92%)
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」96% (84%)
- ・「授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた」76% (64%)
- ・「総合的な探究の時間の勉強は好きだ」87% (75%)
- 次年度は、次の各項目の割合が高まるよう取組を進める。
 - ・「自分で興味・関心を持ったことは、授業に関係なく調べるなど知ろうとしている」(令和7年度目標 100%)
 - ・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」(令和7年度目標 98%)
 - ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」(令和7年度目標 98%)
 - ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」(令和7年度目標 85%)
 - ・「総合的な探究の時間の勉強は好きだ」(令和7年度目標 90%)

ケ 管理機関による支援体制

(7) 道教委による支援体制

- ・予算について、実施計画に基づき適切に執行されている。
- ・人員について、事業の適切な実施に対応するだけの配置を行っている。事業指定校の教育活動の推進を支援するため、適宜必要な情報を提供するとともに、次年度以降も現在の質問・相談体制を維持していく。

(イ) 今年度の成果と課題(○成果、●課題)及び次年度への反映方針

- 道教委の指定校担当者と本校の指定校担当者が連携を密にとりながら、必要な情報を共有することができた。

コ 成果普及のための取組

(7) 公開授業、成果発表会・報告会の開催

特色ある教育活動について公開授業を行うとともに、成果発表会及び報告会を一般公開で開催した。

(イ) ウェブページ等による成果の発信・普及

- ・成果発表会・報告会の様子について、学校ウェブページを通して地域に発信するとともに、報道機関への情報提供を行った。
- ・学校案内パンフレットを作成し、近隣の中学校に配布するなどの広報活動を継続する。

(ウ) 管理機関による成果の発信

道教委が作成している「教育課程編成・実施の手引」等の資料において、本事業における取組事例を掲載した。

(エ) 教育課程研究協議会での実践発表

道教委が主催する「教育課程研究協議会」（全道立高校から）において、本事業における取組の研究発表を行った。

(オ) 「探究」チャレンジプロジェクトへの参加

北海道教育委員会が主催する本事業において、生徒が取り組んだ探究活動の成果を発表し交流した。

(カ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 中学校を訪問して実施した学校説明会や、学校ウェブサイトへの地域探究科通信の掲載などを通して、本校の教育活動や新学科における探究活動の重要性についてなど、本事業の成果を広く普及することができた。
- 「高校生議会」を実施し、高校生が町づくりにより一層参画できる体制を整え、探究活動の成果を地域へ浸透させることができた。
- 本事業および新学科に対しての地域の期待は高く、入学生確保の問題にも影響があることから、今後も丁寧な情報発信を継続する必要がある。

サ 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

(ア) コンソーシアム

事業指定の3年間で構築したコンソーシアムを継続し、地域と連携協働した教育活動を引き続き実施する。

(イ) コーディネーター

指定事業終了後の引継のため、コーディネーター業務の記録及びマニュアル化を進めることができた。

本事業においては、地域コーディネーターの配置が教育活動の要の一つであるとしており、事業終了後も持続可能な形でコーディネーターの採用を維持していくため大樹町教育委員会に予算措置を要請し、本校に地域コーディネーターを配置いただく。

(ウ) 校内体制

地域探究委員会と学年団が連携しながら、総合的な探究の時間及び学校設定科目「地域デザイン」の具体を推進し、地域と連携・協働した教育活動を引き続き実施する。新学科全体の教育課程の編成・実施・評価・改善については地域探究委員会と教務部が連携して行う体制を構築した。

(エ) 今年度の成果と課題（○成果、●課題）及び次年度への反映方針

- 本事業終了後もコーディネーター配置など高校の活性化について、町に要請し、さらなる支援を受けることができた。
- 次年度、道外や管外からの生徒の受け入れや、町の新しいスタッフが派遣されることとなり、地域コーディネーターとの連携や引き継ぎなどを円滑にする必要がある。
 - ・地域の高校支援組織として、町教育委員会が管轄する学校運営協議会と町が管轄する大樹高校活性化推進協議会があり、これらの組織体制を活かして、地域と学校のつながりを組織的に維持していく。

II 研究内容

1 令和7年度(地域探究科)教育課程の編成

(1) 令和7年度(地域探究科)教育課程表

① 令和7年度入学者教育課程表

A 表		(表 面)				第1学年の 学 級 数	1
教育局	十勝	北海道大樹高等学校	全日制課程	学科	地域探究科		
教科	科目・標準単位数	学年	1 年	2 年	3 年	計	
国 語	現 代 の 国 語	2	2			2	
	言 語 文 化	2	2			2	
	論 理 国 語	4		2	3	5	
	文 学 国 語	4					
	国 語 表 現	4					
	古 典 探 究	4					
	○ 古 典 講 読	2			2	0~2	
地 理 歴 史	地 理 総 合	2		2		2	
	地 理 探 究	3					
	歴 史 総 合	2	2			2	
	日 本 史 探 究	3					
	世 界 史 探 究	3			3	3	
公 民	公 共 理 論	2	2			2	
	政 治 ・ 経 済	2			2	2	
	政 治 ・ 経 済	2		2		2	
数 学	数 学 I	3	3			3	
	数 学 II	4		4		0~4	
	数 学 III	3			4	0~4	
	数 学 A	2	2			2	
	数 学 B	2			2	0~2	
	数 学 C	2			2	0~2	
理 科	科学と人間生活	2					
	物 理 基 礎	2		2		2	
	物 理 理 論	4			4	0~4	
	化 学 基 礎	2	2			2	
	化 学 理 論	4		4		0~4	
	生 物 基 礎	2		2		2	
	生 物 理 論	4			4	0~4	
	地 学 基 礎	2					
	地 学 理 論	4					
	地 学 理 論	4					
保 健 体 育	体 育 7~8	2	2	3		2	7
	保 健 体 育	2	1	1			2
芸 術	音 楽 I	2	2				2
	音 楽 II	2		1		1	2
	音 楽 III	2					
	美 術 I	2					
	美 術 II	2					
	美 術 III	2					
	工 芸 I	2		4			
	工 芸 II	2					
	工 芸 III	2					
	書 道 I	2					
	書 道 II	2			4		
	書 道 III	2					
	○ 音 楽 表 現	2		2			0~2
	○ ビ ジ ャ ッ	4			4		0~4
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				3
	英語コミュニケーションⅡ	4		2		3	5
	英語コミュニケーションⅢ	4					
	論 理 ・ 表 現 Ⅰ	2			2		0~2
	論 理 ・ 表 現 Ⅱ	2				4	
	論 理 ・ 表 現 Ⅲ	2					
家 庭	家 庭 基 礎	2	2		4		2
	家 庭 総 合	4					
情 報	情 報 Ⅰ	2	2			4	2
	情 報 Ⅱ	2					
理 数	理 数 探 究 基 礎	1					
	理 数 探 究	2~5					

(裏面)

[illegible]

19

② 令和7年度学年別教育課程表

B 表		(表 面)		学級数	
教育局	十勝	北海道大樹高等学校	全日制課程	学科	地域探究科
				第1学年	1
				第2学年	1
				第3学年	1
教科 科目	学年		1 年	2 年	3 年
	科目・標準単位数	類型			
国 語	現 代 の 国 語	2	2		
	言 語 文 化	2	2		
	論 理 国 語	4		2	
	文 学 国 語	4			
	国 語 表 現	4			
	古 典 探 究	4			
	○ 古 典 講 読	2			
地 理 歴 史	地 理 総 合	2		2	
	地 理 探 究	3			
	歴 史 総 合	2	2		
	日 本 史 探 究	3			
公 民	世 界 史 探 究	3			
	公 共	2	2		
	倫 理・経 済	2		2	
数 学	数 学 I	3	3		
	数 学 II	4		4	
	数 学 III	3			
	数 学 A	2	2		
	数 学 B	2			
	数 学 C	2			
理 科	科学と人間生活	2			
	物 理 基 礎	2		2	
	物 理	4			
	化 学 基 礎	2	2		
	化 学	4			4
	生 物 基 礎	2		2	
	生 物	4			
	地 学 基 礎	2			
保 健 体 育	地 学	4			
	体 育 7～8	2	2	3	
英 語	保 健	2	1	1	
	音 楽 I	2	2		
	音 楽 II	2		1	
	音 楽 III	2			
	美 術 I	2			
	美 術 II	2			
	美 術 III	2		4	
	工 芸 I	2			
	工 芸 II	2			
	工 芸 III	2			
	書 道 I	2			4
	書 道 II	2			
	書 道 III	2			
	○ 音 楽 表 現	2		2	
外 国 語	○ ビ ジ ア ノ	4			
	英 語 コミュニケーション I	3	3		
	英 語 コミュニケーション II	4		2	
	英 語 コミュニケーション III	4			
	論 理・表 現 I	2			
	論 理・表 現 II	2			
家 庭	論 理・表 現 III	2			
	家 庭 基 礎	2	2		
情 報	家 庭 総 合	4			
	情 報 I	2	2		
理 数	情 報 II	2			
	理 数 探 究 基 礎	1			
	理 数 探 究	2～5			

(裏面)

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

(2) 「総合的な探究の時間（キャリアデザイン）」及び学校設定科目「地域デザイン」の全体計画

「キャリアデザイン」全体計画

学校として育成を目指す資質・能力に関する方針		1 共生 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を支える人材となる生徒												
		2 共創 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒												
		1 学年（1 単位）		2 学年（1 単位）		3 学年（1 単位）								
育成を目指す資質・能力		①課題発見・課題解決能力 ②自己発信力 ③キャリアプランニング能力												
目標		①勤労や職業についての探究活動と おして、課題発見・課題解決の手法 を身に付ける。 ②インターンシップについて活動の成 果をまとめて発表する力を身に付け る。 ③自身の興味・関心と、勤労や職業と の関わりを見つけようとする。		①文化や価値観についての探究活動と おして、課題発見・課題解決の手 法を身に付ける。 ②台湾見学旅行について活動の成果を まとめて発表する力を身に付ける。 ③文化や価値観の多様性に触れ、自己 理解を深めようとする。		①自身の進路実現のために、身に付け た課題発見・課題解決能力を活かす ことができる。 ②進路活動において、志望理由や自身 の取組の成果を整理して発信する力 を身に付ける。 ③高校卒業後の自身の立場や役割を踏 まえて、社会への貢献方法を考えよ うとする。								
		月日		内容		時数		内容		時数				
前 期	4月第2週		～	オリエンテーション		1		オリエンテーション		1				
	4月第3週		～					自己分析 （自分の興味・関心に気付く）		2				
	4月第4週		～					自己分析 （自分の興味・関心に気付く）		2				
	5月第1週		～	キャリアデザイン入門 探究活動とは		2		自己分析 （自分の興味・関心に気付く）		2				
	5月第2週		～	キャリアデザイン入門 探究活動とは		1		自己分析 （自分の興味・関心に気付く）		2				
	5月第3週		～	キャリアデザイン入門 プレゼンテーションとは		3								
	5月第4週		～	キャリアデザイン 発表練習・発表		2								
	5月第5週		～											
	6月第1週		～							大樹町議会見学 一般質問模範		3		
	6月第2週		～											
	6月第3週		～											
	6月第4週		～							進路別自己探求 （進路強化研修）		8		
	7月第1週		～											
	7月第2週		～											
	7月第3週		～	インターンシップ説明		1								
	7月第4週		～	職業座談会		2								
	8月第3週		～											
	8月第4週		～											
	8月第5週		～							高校生議会準備 （一般質問通告作成）		3		
	9月第1週		～							高校生議会準備 （一般質問通告作成）		2		
	9月第2週		～											
	9月第3週		～					台湾見学旅行事前学習 （課題設定、情報収集）		2				
	9月第4週		～					台湾見学旅行事前学習 （課題設定、情報収集）		2		高校生議会準備（再質問作成）		3
後 期	10月第1週		～					台湾見学旅行事前学習 （課題設定、情報収集）		2		高校生議会準備（再質問作成）		2
	10月第2週		～	インターンシップ課題設定		2		台湾見学旅行事前学習 （課題設定、情報収集）		2				
	10月第3週		～	インターンシップ課題設定		2						高校生議会		6
	10月第4週		～					台湾見学旅行まとめ		3				
	10月第5週		～					台湾見学旅行まとめ		2				
	11月第1週		～	インターンシップ		12		台湾見学旅行まとめ		2				
	11月第2週		～	インターンシップまとめ 見学旅行報告会参加		5		台湾見学旅行 発表練習、報告会		4				
	11月第3週		～	インターンシップまとめ		3								
	11月第4週		～	インターンシップ 発表練習、報告会		3								
	12月第1週		～											
	12月第2週		～											
	12月第3週		～											
	1月第3週		～											
	1月第4週		～											
	1月第5週		～					論文作成、発表会		2		探究活動の振り返り		2
	2月第1週		～					論文作成、発表会		2				
	2月第2週		～					論文作成、発表会		2				
	2月第3週		～											
	2月第4週		～											
	3月第1週		～											
	3月第2週		～	進路活動体験講話		1		進路活動体験講話		1				
	3月第3週		～											
	合計						40				35		30	

「地域デザイン」全体計画

学校として育成を目指す資質・能力に関する方針		1 共生 自他を尊重する寛かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を支える人材となる生徒 2 共創 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒				
		2 学年（2 単位）	3 学年（1 単位）			
育成を目指す資質・能力	1 共生 ①自己と他者を大切にすること ②他者と協調する力 ③地域を支える力		2 共創 ①自ら学ぶ力 ②探究する力 ③主体的に他者と地域に参画する力 ④価値を見出したり価値付けたり価値を創造する力			
目標	1 地域の多様な産業のよさを理解し、生活との関わりについて考える。 2 他者と協働しながら地域の課題を把握し、課題の解決に向けて考え、実行・検証・改善を繰り返す。		1 他者と協働しながら地域の課題を把握し、課題の解決に向けて考え、実行・検証・改善を繰り返す。 2 地域の課題解決に向けた取組を校外で発信し、地域の発展・活性化に貢献する。			
	月日	内容	時間数	内容	時間数	
前期	4 月第 2 週	～	オリエンテーション	2		
	4 月第 3 週	～	大樹町の福祉・教育（事前学習）	2	個人探究（事前調査）	2
	4 月第 4 週	～	大樹町の福祉・教育（見学・まとめ）	6	個人探究（事前調査）	2
	5 月第 1 週	～				
	5 月第 2 週	～			個人探究（フィールドワーク・まとめ）	6
	5 月第 3 週	～			個人探究（中間発表会）	2
	5 月第 4 週	～				
	5 月第 5 週	～	大樹町の農業・漁業・林業（事前学習）	2	個人探究（追加調査）	2
	6 月第 1 週	～	大樹町の農業・漁業・林業（見学・まとめ）	6	個人探究（追加調査）	2
	6 月第 2 週	～	大樹町の宇宙・科学技術（事前学習）	2	個人探究（追加調査）	2
	6 月第 3 週	～	大樹町の宇宙・科学技術（見学・まとめ）	6	個人探究（報告会準備）	2
	6 月第 4 週	～			個人探究（報告会準備）	2
	7 月第 1 週	～				
	7 月第 2 週	～			個人探究（報告会準備）	2
	7 月第 3 週	～	探究成果発表会参加	4	探究成果報告会・振り返り	6
	7 月第 4 週	～				
	8 月第 3 週	～	大樹町の商業・観光（事前学習）	2		
	8 月第 4 週	～	大樹町の商業・観光（見学・まとめ）	6		
	8 月第 5 週	～				
	9 月第 1 週	～				
	9 月第 2 週	～				
	9 月第 3 週	～	大樹区・義守大学との交流会準備	2		
	9 月第 4 週	～	大樹区・義守大学との交流会準備	2		
後期	10 月第 1 週	～	大樹区・義守大学との交流会準備	2		
	10 月第 2 週	～				
	10 月第 3 週	～				
	10 月第 4 週	～				
	10 月第 5 週	～				
	11 月第 1 週	～				
	11 月第 2 週	～				
	11 月第 3 週	～				
	11 月第 4 週	～				
	12 月第 1 週	～	分野別グループ探究（課題設定・事前調査）	2		
	12 月第 2 週	～	分野別グループ探究（課題設定・事前調査）	2		
	12 月第 3 週	～	分野別グループ探究（課題設定・事前調査）	2		
	1 月第 3 週	～	分野別グループ探究（課題設定・事前調査）	2		
	1 月第 4 週	～	分野別グループ探究（フィールドワーク・まとめ）	6		
	1 月第 5 週	～	分野別グループ探究（報告会準備）	4		
	2 月第 1 週	～	分野別グループ探究（報告会・振り返り）	4		
	2 月第 2 週	～				
	2 月第 3 週	～				
	2 月第 4 週	～				
	3 月第 1 週	～				
3 月第 2 週	～	個人探究（課題設定・活動計画作成）	2			
3 月第 3 週	～	個人探究（課題設定・活動計画作成）	2			
合計			70		30	

【北海道大樹高等学校】2025 1 学年「キャリアデザイン」指導計画 単元解説図

24

2年生の到達目標

①文化や価値観についての探究活動を通して、課題発見・課題解決の手法を身に付ける。

①文化や価値観についての探究活動を通して、課題発見・課題解決の手法を身に付ける。

②台湾見学旅行について活動の成果をまとめて発表する力を身に付ける。

②台湾見学旅行について活動の成果をまとめて発表する力を身に付ける。

②台湾見学旅行について活動の成果をまとめて発表する力を身に付ける。

		11月		12月		1月		2月		
20	21	22	23	24	25	26	27	28		
台帳更新代行とごめ					台帳更新代行 発表報告 報告会					論文作成・発表会
をふまえてまとめを行い、報告会資料を を整理して発表の機会を設けること、 広むるような発表を奨励する。 と見直し、報告と深めら。					報告会の前に別のグループと発表を見せ合い、ブラ ッッシュアップを行う。 ・グループごとに入社生は学習センターで学生・ 町民会生・保護者への報告を行う。 ・機微的に質疑応答に参加する。					・海外学習による発表の方法を整理する。 ・事前準備から発表後行動報告会までの流れも の成長度 600字〜800字程度の国・語文形式でまと ・完成した論文を4〜5人のグループごとに発表し の内容や論文の表現についてアドバイスをし合う。
活動内容が羅列されて終わらないよう、事前					更へやを3回に分けて、初演と模範発表担当で模範 教育委員会・大塚中学校と日曜講座を行い、見学者 行旅（近隣の学生や学校内で行い、見学者 ・ Classroom をとて、生徒どうしの相互評価できる 仕組みを準備する。 ・発表者からコメントを収集する。 ・発表の時間を短くするなどして、教員からの評価と ・今日の発表活動の振り返りの時間を確保する。					・国語の学習や作成した見本となる論文を閲覧し ・論文の項目は教員が例を作成しておく、コンド ・あらかじめフォーマットを用意しておく、コンド ・パソコンを用いて作成させる。 ・グループごとに担当教員が役割・評価を行う。 ・作成した論文は、事前に電子で送りとして保管する。 ・発表者4回生「自分の考えを1つと80字で論議的に になるメソッド (R30)。(中略付)

3年生の到達目標

①自身の進路実現のために、身に付けた課題発見・課題解決能力を活かすことができる。

- ②進路活動において、志望理由や自身の取組の成果を整理して発信する力を身に付ける。

③高校卒業後の自身の立場や役割を踏まえて、社会への貢献方法を考えようとする。

目指せ！

26

【北海道大館高等学校】2025 2 学年「地域デザイン」指導計画 単元構造物 図

2年生の到達目標

- ①地域の多様な産業のよさを理解し、生活との関わりについて考える。
- ②他者と協働しながら地域の課題を把握し、課題の解決に向けて考え、実行・検証・改善を繰り返す。

目指せ！

[illegible]

【北海道大樹高等学校】 2026 3 学年「地域デザイン」指導計画 単元構造図

資質・能力を育成するために・・・

年間30時間の中で、

①個人探究

②探究成果報告会

を実施します。

自分で設定した課題を、3年間で身に付けた力を活かして探究し、その成果を報告します！

目指せ！

3年生の到達目標

①他者と協働しながら地域の課題を把握し、課題の解決に向けて考え、実行・検証・改善を繰り返す。

②地域の課題解決に向けた取組を校外外で発信し、地域の発展・活性化に貢献する。

指導の計画

月	4月	5月	6月	7月
期	1-4	11-12	13-18	19-24
授業	個人探究 (準備活動)	個人探究 (中間発表)	個人探究 (追加活動)	個人探究 (振り返り)
授業	・フィールドワークに向けて、自身の仮説を夏休明けのような情報を収集する。 ・地域の課題解決のために自身の仮説をどう改善するかを考える。 ・必要に応じてクラスメイトと現状報告を行い、気づき動を促す。	・目的を明確にした上で、フィールドワークを行い、立派な仮説と地域へ提案する。 ・フィールドワークで得られた情報をもとに自身の仮説を改善する。 ・テーマ決定から仮説の改善までの活動を整理し、他者へ報告できる形で整理する。 ・改善した仮説の検証に向けた調査計画を考える。	・3～4人のグループごとに活動の中間報告を行い、質疑応答を通して互いの仮説を改善する。 ・改善した仮説の検証に向けた調査計画を考える。	・課題解決から仮説検証までの流れを踏まえて、発表のアイディアを作成する。 ・発表のアイディアを基に、パワーポイント等で報告会資料を作成する。 ・自分の考えや他者が伝わるような発表を準備する。 ・発表会の前にクラスメイトと発表を見せ合い、ブラッシュアップを行う。
学習	・フィールドワークに向けて、自身の仮説を夏休明けのような情報を収集する。 ・地域の課題解決のために自身の仮説をどう改善するかを考える。 ・必要に応じてクラスメイトと現状報告を行い、気づき動を促す。	・目的を明確にした上で、フィールドワークを行い、立派な仮説と地域へ提案する。 ・フィールドワークで得られた情報をもとに自身の仮説を改善する。 ・テーマ決定から仮説の改善までの活動を整理し、他者へ報告できる形で整理する。 ・改善した仮説の検証に向けた調査計画を考える。	・3～4人のグループごとに活動の中間報告を行い、質疑応答を通して互いの仮説を改善する。 ・改善した仮説の検証に向けた調査計画を考える。	・課題解決から仮説検証までの流れを踏まえて、発表のアイディアを作成する。 ・発表のアイディアを基に、パワーポイント等で報告会資料を作成する。 ・自分の考えや他者が伝わるような発表を準備する。 ・発表会の前にクラスメイトと発表を見せ合い、ブラッシュアップを行う。
評価	・地域デザインは原則居残りで行い、フィールド・案内・巡回・Pod・チーム・プレートを担当する。 ・授業担当者は(3年生の探究担当、3年生組、地域コーディネーター)とし、分担して振り廻りノートの確認を行う。 ・生徒に担当教師を割り当てる。 ・地域デザインは原則居残りで行い、フィールド・案内・巡回・Pod・チーム・プレートを担当する。 ・授業担当者は(3年生の探究担当、3年生組、地域コーディネーター)とし、分担して振り廻りノートの確認を行う。 ・生徒に担当教師を割り当てる。	・フィールドワークの目的と終了後に行うこととを事前確認する。 ・フィールドワーク先の巡回や写真撮影を授業担当で分担する。 ・日程が含まなかった場合や追加の検証が必要な場合は、別日に授業を公次してフィールドワークに出ることも可能とする。	・生徒一人一人の進捗状況をこまめに確認し、必要な情報共有を促す。 ・必要に応じて地域コーディネーターが関係者・交通手段の手配を行う。 ・日程が含まなかった場合や追加の検証が必要な場合は、別日に授業を公次してフィールドワークに出ることも可能とする。	・コンピュータ室で行う。 ・探究活動の進捗状況をこまめに確認し、必要な情報共有を促す。 ・必要に応じて地域コーディネーターが関係者・交通手段の手配を行う。 ・日程が含まなかった場合や追加の検証が必要な場合は、別日に授業を公次してフィールドワークに出ることも可能とする。
振り返り	・授業の進捗状況、資料は3年生の探究担当と地域コーディネーターが行う。 ・会場準備(体育館)は前日の内に済ませておく。 ・運営(司会・受付等)は、授業担当者で分担して行う。 ・Classroomなどで、生徒どうしの相互評価ができる仕組みを準備する。 ・報告会終了から振り返りまでの間に評価を行う。 ・地域デザインの生徒評価を行う。	・授業の進捗状況、資料は3年生の探究担当と地域コーディネーターが行う。 ・会場準備(体育館)は前日の内に済ませておく。 ・運営(司会・受付等)は、授業担当者で分担して行う。 ・Classroomなどで、生徒どうしの相互評価ができる仕組みを準備する。 ・報告会終了から振り返りまでの間に評価を行う。 ・地域デザインの生徒評価を行う。	・授業の進捗状況、資料は3年生の探究担当と地域コーディネーターが行う。 ・会場準備(体育館)は前日の内に済ませておく。 ・運営(司会・受付等)は、授業担当者で分担して行う。 ・Classroomなどで、生徒どうしの相互評価ができる仕組みを準備する。 ・報告会終了から振り返りまでの間に評価を行う。 ・地域デザインの生徒評価を行う。	・授業の進捗状況、資料は3年生の探究担当と地域コーディネーターが行う。 ・会場準備(体育館)は前日の内に済ませておく。 ・運営(司会・受付等)は、授業担当者で分担して行う。 ・Classroomなどで、生徒どうしの相互評価ができる仕組みを準備する。 ・報告会終了から振り返りまでの間に評価を行う。 ・地域デザインの生徒評価を行う。

(5) 学校設定科目「大樹高 Plus」年間計画

令和7年度入学生 Ⅰ学年「大樹高Plusベーシック・アドバンスト・ビジネス」計画表(仮)

学校として育成を目指す資質・能力に関する方針	①共生 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を支える人材となる生徒 ②共創 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒
科目のねらい	それぞれの進路に応じた幅広い活動をとおり、生徒個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、自学する力と探究する力を身に付けるとともに、自己の目標実現に向け主体的に取り組む、地域を受取る心を育てる。
単位数	Ⅰ単位
育成を目指す資質・能力	①自己理解・自己管理能力 地域との関係を保ちながら、肯定的な自己理解に基づき主体的に行動できるとともに、今後の自己の成長のために進んで学ぼうとする力 ②課題対応能力 自分の進路実現のための課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し対応する力
目標	①自分の能力・才能を理解する。 ②自学する力、探究の基礎的技能を理解し活用する。

月	時	ベーシック	アドバンスト	ビジネス
4月	1	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション
	2	キャリアについて聞く・話す	キャリアについて聞く・話す	キャリアについて聞く・話す
	3			
5月	4	義務教育段階の復習 高校基礎	義務教育段階の復習 高校基礎	義務教育段階の復習 高校基礎
	5			
	6			
6月	7			
	8			
	9			
7月	10			
	11			
	12			
9月	13			
	14			
	15	前期振り返り	前期振り返り	前期振り返り
10月	16	学校説明会in大樹	学校説明会in大樹	学校説明会in大樹
	17			
	18	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション
11月	19	一般常識 高校基礎	現代文 数学 英語	ビジネス文書 情報処理
	20			
	21			
12月	22			
	23			
	24	目指す進路に向けた目標設定	目指す進路に向けた目標設定	目指す進路に向けた目標設定
	25			
1月	26	一般常識 高校基礎	現代文 数学 英語	ビジネス文書 情報処理
	27			
	28	企業説明会in大樹	企業説明会in大樹	企業説明会in大樹
2月	29			
	30	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り
	31			
3月	32	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り
	33			
	34	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り
3月	35	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り

令和6年度入学生 2学年「大樹高Plusベーシック・アドバンスト・ビジネス」計画表（仮）

学校として育成を目指す資質・能力に関する方針	①共生 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を支える人材となる生徒 ②共創 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒
科目のねらい	それぞれの進路に応じた幅広い活動とおして、生徒個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、自学する力と探究する力を身に付けるとともに、自己の目標実現に向け主体的に取り組む、地域を受取る心を育てる。
単位数	1単位
育成を目指す資質・能力	①キャリアアブラニング能力 「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する情報を活用しながら主体的に判断しキャリアを形成していく力 ②自己理解・自己管理能力 地域との関係を保ちながら、肯定的な自己理解に基づき主体的に行動できるとともに、今後の自己の成長のために進んで学ぼうとする力
目標	①多様な生き方について理解する。 ②課題を設定し、自分の役割を果たしながら、将来を意識した生活をする。

月	時	ベーシック	アドバンスト	ビジネス
4月	1	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション
	2	学校・業界分析	学校・業界分析	学校・業界分析
	3			
5月	4	一般常識 高校基礎	古典 数学 英語	ビジネス文書 情報処理
	5			
	6			
6月	7	進路講座	進路講座	進路講座
	8			
	9			
7月	10	一般常識 高校基礎	一般常識 高校基礎	一般常識 高校基礎
	11			
	12			
9月	13	前期振り返り	前期振り返り	前期振り返り
	14			
	15			
10月	16	学校説明会in大樹	学校説明会in大樹	学校説明会in大樹
	17			
	18			
11月	19	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション
	20	自己分析 業界研究	古典 数学 英語	ビジネス文書 情報処理
	21			
12月	22			
	23	履歴書作成	自己分析 志望理由書作成	自己分析 志望理由書作成
	24			
1月	25			
	26	表現サポート	表現サポート	表現サポート
	27			
2月	28			
	29	企業説明会in大樹	企業説明会in大樹	企業説明会in大樹
	30			
3月	31			
	32	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り
	33			
	34			
3月	35	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り

令和5年度入学生 3学年「大樹高Plusベーシック・アドバンスト・ビジネス」計画表（仮）

学校として育成を目指す資質・能力に関する方針	①共生 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を支える人材となる生徒 ②共創 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒
科目のねらい	それぞれの進路に応じた幅広い活動をとおり、生徒個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、自学する力と探究する力を身に付けるとともに、自己の目標実現に向け主体的に取り組む、地域を愛する心を育てる。
単位数	1単位
育成を目指す資質・能力	①人間関係形成・社会形成能力 多様な他者の考えや立場を理解しながら、自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ、他者と協働し地域に参画し、今後の地域を積極的に形成できる力 ②キャリアプランニング能力 「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する情報を活用しながら主体的に判断しキャリアを形成していく力
目標	①自分の進路の実現に向け努力する。 ②他者と協力しながら地域に参画する。

月	時	ベーシック	アドバンスト	ビジネス
4月	1	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション	前期オリエンテーション
	2	自己分析・志望理由の深化	自己分析・志望理由の深化	自己分析・志望理由の深化
	3			
5月	4			
	5	履歴書作成 面接・発表・スピーチ技術の錬成	書類作成 面接・発表・スピーチ技術の錬成	書類作成 面接・発表・スピーチ技術の錬成
	6			
6月	7			
	8	面接練習	現代文 数学 英語	ビジネス文書 情報処理
	9			
7月	10			
	11	出願準備 受験報告書作成	出願準備	出願準備
	12			
8月	13			
	14	面接練習	現代文・数学・英語	ビジネス文書 情報処理
	15			
9月	16			
	17	前期振り返り	前期振り返り	前期振り返り
	18			
10月	19			
	20	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション	後期オリエンテーション
	21			
11月	22			
	23	プレゼンテーション 一般教養	自学自習	プレゼンテーション 一般教養
	24			
12月	25			
	26	後期振り返り	後期振り返り	後期振り返り
	27			
1月	28			
	29			
	30			

2 総合的な探究の時間の取組

(1) インターンシップ

① 目的

- ア 勤労観、職業観を醸成し、自身の特性、興味、関心との関わりに気付かせる。
- イ 自己と業界について理解を深め、社会に出る上での課題を設定させる。
- ウ 進路選択への積極性を醸成する。
- エ 学習意欲の向上をはかる。

② 対象生徒

1 学年 26 名

③ 活動の概要

ア 実施の流れ

7 月 18 日 (木) 〈探究 1 時間〉	☐ 活動計画説明 ☐ 希望調査
10 月 2 日 (水) 〈探究 2 時間〉	☐ 履歴書作成 ☐ 自己分析
10 月 7 日 (月) 〈探究 2 時間〉	☐ 業界・事業所についての情報収集 ☐ 課題設定
10 月下旬 〈放課後等〉	☐ 事業所への電話連絡
11 月 7 日 (木) ～ 8 日 (金) 〈探究 12 時間〉	☐ インターンシップ
11 月 12 日 (火) 〈探究 2 時間〉	☐ 報告会説明 ☐ 発表資料作成
11 月 18 日 (月) 〈探究 1 時間〉	☐ 発表資料作成
11 月 19 日 (火) 〈探究 2 時間〉	☐ 発表資料作成 ☐ 発表練習
11 月下旬 〈放課後等〉	☐ 発表練習
11 月 27 日 (水) 〈探究 3 時間〉	☐ 報告会準備 ☐ インターンシップ実施報告会

イ 令和 6 年度 実習先一覧

・大樹町役場	・大樹町図書館
・大樹消防署	・大樹町農業協同組合
・大樹町商工会	・道の駅コスモール大樹
・大樹町立国民健康保険病院	・介護老人保健施設ケアステーションひかり
・播間総合法務事務所	・シャトル大樹宮本興産株式会社
・株式会社 Moving Inn	
・森のスバリゾート 北海道ホテル	・帯広市立豊成小学校
・自衛隊帯広地方協力本部	・帯広スバル自動車株式会社
・パナソニックスイッチングテクノロジーズ株式会社	
・ペットワールド ジョイフルエーケー帯広店	
・美容室ア・ラモード サントル店	・きたのくにこども園
・十勝野フロマージュ	・スポーツプラス
・道の駅なかさつない	

ウ 事前学習

○ 活動計画説明

活動の目標、活動のゴールについて説明した。自分な好きな仕事を体験すること、実習先の業務内容を身に付けることだけが目的ではなく、働くことの意義を深め社会に出る上での自分の課

題に気付き改善を目指すことが大切であると強調した。また、インターンシップに関する一連の活動が探究活動の一環であることも説明し、探究のサイクルを意識して活動できるよう伝えた。

○ 履歴書作成

高卒求人への応募の際に提出する履歴書は基本的に電子作成が認められている。そこで、今年度からインターンシップで作成する簡易版の履歴書についても電子作成を行った。履歴書作成をとおして、自分自身の長所・短所と向き合い、実習の際に自分が何を学びたいのかを明確にすることができた。加えて、就職（アルバイトを含む）する際には履歴書という自分を説明する書類を提出する必要があることや基本的なパソコン操作についても理解した。作成した履歴書は学年団の教員で分担してあらかじめ事業所に持参し、事業所の担当者と簡単に打合せを行った。

実習先の業界全体、実習先の事業所について情報収集を行い、履歴書作成の際に考えた長所・短所も踏まえて、実習期間中に解決できそうな自分自身の課題を設定した。その際、教員との問答を通して課題を具体的なものに深掘りした。

○ 事業所への電話連絡

当日の集合時間等は、生徒から事業所の担当者へ電話で確認した。教員が生徒のそばで見守りながらではあるが、電話での応対方法やメモを取るなどを体験しながら学んだ。

エ インターンシップ

実習先の事業所により集合場所・集合時間が異なるため、生徒がそれぞれ現地集合・現地解散する形で実施した。実習期間中に学年団の教員で分担し巡回を行い、生徒の活動の様子を見守った。詳細な活動内容については、1日ごとに生徒が実習日誌を記載し事業所の担当者にもコメントを頂くという形で記録として残した。実習日誌の最後には、自身の課題が解決できたか、今後の学校生活にインターンシップでの学びをどう活かすかなどの振り返りを行う欄を設け、実習終了後の登校日に回収した。



オ 事後学習

○ 実習先への礼状について

例年、事業所に対して生徒が手書きで礼状を作成し、教員が作成した礼状と合わせて送付していたが、限られた配当時間の中で勤労や自己に関する学びの時間を優先するため今年度から廃止した。ただし、教員が作成した礼状を提示し、外部の団体にお世話になった場合や就職試験を受けて内定した場合は礼状というものを作成することは説明した。

○ 報告会説明

報告会について、参加者（事業所の方、保護者、町内教育関係者、教員）、発表時間（2分半～3分）、会場（本校体育館で発表資料をスクリーンに投影）などを伝え、スケジュールを確認した。特に、時系列に沿った活動の紹介ではなく設定した課題とその検証結果について発表してほしいこと、参加者が見やすい発表資料を作成することを強調して伝えた。

○ 発表資料作成・発表練習

実習日誌を元に、生徒同士で声を掛け合ったり、教員からアドバイスをもらったりしながら発表資料を作成した。発表原稿も事前に作成し、パソコンの画面上で時間を測定しながら教員に発表を見せ、本番でスムーズに発表ができるよう準備した。

カ 報告会

会場設営後、発表順にステージに上がり、本番の動きや使用するマイクやパソコンの操作を簡単に確認した。教室でクラスの生徒に向けた発表は経験したことがあるが、外部の方が参加する場面での発表は生徒にとって初めてであった。そのため、生徒はかなり緊張していたが、参加者に向け堂々と活動の成果を発表することができた。発表について、生徒からは「文字に色をつけたり背景の色を変えたりして、見る人が飽きないような工夫ができた」「ゆっくりハキハキ話すことを意識できた」という感想が上がり、参加者からは「企業についての報告だけでなく、インターンシップから得た自身のコミュニケーションの課題を見つめ直す機会になっていた生徒が多かったのが良かった」「1人の発表でも堂々と発表しており、プレゼン資料もわかりやすくまとめているところが良かった」という感想をいただいた。

④ 成果及び評価

活動の目標やスケジュール、評価の観点について、地域探究委員会で作成した年間計画を生徒向けにスライドを用いて説明するとともに、説明資料を GoogleClassroom で共有し活動の途中でも見返せるようにした。学年団の教員間でも、各時間の到達目標や指導の留意点、担当生徒分担を共有し、共通認識を持って指導に当たった。その結果、生徒がインターンシップ全体の趣旨を踏まえて活動し、教員との門等をとおして十分に内容を掘り下げることができた。また、事前学習の機関に1時間配当で2回 CST（コミュニケーションスキルトレーニング）を実施し、CSTでの学びと社会に出て必要なコミュニケーションを強く関連付けて指導することができた。

⑤ 今後の課題

報告会での1人当たりの発表時間は限られているので、発表内容に盛り込みたいことでも割愛した部分があった。さらに、報告会の参加者から「課題検証以外に職場の事業内容、やりがいなど感じたことをもっと報告したらよいのでは」という感想をいただいた。報告会を2会場で実施し1人当たりの発表時間を長くすることも検討の余地があるとともに、本校のインターンシップの位置づけは、課題発見・課題解決能力、自己発信力、キャリアプランニング力を育成するための探究活動であるので、地域・企業のイメージとのギャップをどう埋めていくかも課題である。また、11月という時期では受け入れが厳しい企業・業種があること、1年後期の時点ではまだ社会性が身に付いていない生徒や進

路について向き合えていない生徒もいることから、生徒の希望や必要に応じて、別の時期に個別のインターンシップを実施する必要があるかもしれない。

(2) 台湾見学旅行

① 目的

- ア 集団生活を通して、ルールを守ることの大切さを学び、自己管理する力を養う。
- イ 仲間との交流や、学校交流を通して、人間関係形成の力を養う。
- ウ 自ら積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際社会の一員としての自覚と資質を養う。
- エ 他国の生活文化を尊重・理解すると共に、日本の伝統と文化の特色についての認識を深める。

② 対象生徒

2 学年 33 名

③ 活動の概要

ア 行程

10 月 16 日(水)	大樹-台北 台北	大樹高校-新千歳空港-台湾、桃園空港へ移動 士林夜市見学
10 月 17 日(木)	台北 台北-高雄	忠烈祠見学 故宮博物院見学 台北-高雄へ新幹線を利用して移動
10 月 18 日(金)	高雄	バイナップル狩り体験 仏陀記念館見学 義守大学日本語学科生徒との交流(日本文化の紹介) 大樹區表敬訪問
10 月 19 日(土)	高雄 高雄-台北	自主研修(義守大学日本語学科学生とともに) 高雄-台北へ移動
10 月 20 日(日)	台北-大樹	台湾、桃園空港-新千歳空港-大樹高校へ帰着

イ 事前学習

○ 教科等横断型授業の実施(9 月 20 日、9 月 26 日)

台湾見学旅行の実施に向けて、事前学習として「たいわんDAY」を設けて、さまざまな教科の観点から、台湾について学ぶ教科横断型授業を実施した。

社会科 ワークシートを使用しながら、台湾の政治、経済、歴史、気候、地理について学びを深めた。



理 科 台湾の植物である「愛玉子(オーギョーチ)」の種子が、水の中に入れるとゼリー状に固まる仕組みについて、科学の観点から実験等を交えて学んだ。



家庭科 台湾の代表的な食べ物である「ルーロー飯」の調理実習を行った。



○ 義守大学学生とのオンライン交流、自主研修行程のプランニング

台湾見学旅行において、現地の義守大学日本語学科の生徒と交流する機会を設けている。交流前の顔合わせと、現地における自主研修の打合せとして、オンライン交流を実施した。高校生が事前にインターネットで調べて作成した自主研修の行程表を基に、実現できるかどうか、よりよい行程はあるかなど、各班で打合せを行った。



○ 手作りお土産作成

現地では、ガイドや大学関係者、帯同看護師等多くの方にお世話になることを踏まえ、手作りのお土産を作成することとした。生徒がアイデアを出し合い、今年度は「ミサンガ」を計 100 個ほど作成した。



ウ 見学旅行

○ 義守大学学生との文化交流(10月18日)

義守大学日本語学科の学生総勢 100 名に対して、4つのグループに分かれ、日本の文化的な遊びについて紹介し、交流を深めた。

日本の文化的な遊びとして「福笑い」、「リーダーさがし」、「ハンカチ落とし」、「はないちもんめ」の4つを交流ブースを設け、レクチャーしながら大学生と一緒に遊びを体験していただいた。

生徒は身振り、手振りでコミュニケーションをとる他に、日本語が分からない学生にも分かりやすいようにイラストや、Google 翻訳を活用した説明文を添付してあるレクチャー用のシートを使用するなど、工夫が見られた。



○ 自主研修(10月19日)

7つの班に分かれ、台湾で第2の都市と呼ばれる高雄市内を義守大学学生と散策した。事前に各班で作成した行程を基に、地下鉄やタクシー、フェリー、レンタサイクルなど、さまざまな公共の乗り物を利用しながら半日行動し、台湾の文化や食、風土に触れた。



○ 台湾 観光地見学

4泊5日の行程の中で、計5箇所の観光地を巡り、台湾の文化に触れる機会を設けた。それぞ

れの観光地で、台湾の文化や歴史に触れ、日本文化との違いを体感する機会を持った。



台北・士林夜市(10/16)



台北・忠烈祠(10/17)



台北・故宮博物院(10/17)



高雄・仏陀記念館(10/18)



高雄・パイナップル狩り(10/18)

○ 大樹區表敬訪問(10月18日)

大樹町は平成27年より、台湾の高雄市大樹區(だいじゅく)と友好交流協定を結んでおり、今回の見学旅行においても区役所を表敬訪問し、交流を深めた。



エ 事後学習

○ 見学旅行報告会(11月15日)

見学旅行の事後学習として、「見学旅行報告会」を本校体育館にて実施した。見学旅行終了後、パワーポイントを使用したプレゼンテーション資料の作成を、情報科と連携して行った。次の4点について、班ごとに発表を行い、活動全体のふりかえりの機会を持った。

- ・観光地に関する報告
- ・義守大学との交流に関する報告
- ・大樹區表敬訪問報告
- ・各研修班による自主研修報告



④ 成果及び評価

海外へ渡航したことがない生徒が大半であり、見学旅行でこのような経験ができるのは大変価値のあるものである。しかし、「台湾が楽しかった」、「料理が美味しかった」という感想だけで終わってしまっては探究活動もなく、有意義とは言えなくなってしまう。そのため、今年度は日本と台湾の「比較」という視点で台湾へ行き、経験し、実施報告会で発表を行った。

教科を横断した事前学習「たいわん DAY」の実施や、現地大学生との交流、自主研修のための準備に ICT を活用したオンラインで実施したことで、生徒は旅行の目的を意識しながら積極的に学びに向かうことができた。渡航前にさまざまな視点から学びを深めることで、旅行に向けて気持ちを高めることができ、さらには旅行中にも事前学習での学びを生かすことができた。

旅行中、多くの場面で日本との文化の違いやそれぞれの国のよさ、課題等に触れることができた。さらに、現地のガイドや大学生との交流をとおり、「人のあたたかさや優しさを感じることもできた」という評価をしている生徒も多く、実際に海外旅行を経験することで他国の生活文化を理解することができたと考える。

実施報告会においても、それぞれの班が見学したところを紹介するだけではなく、日本と比較してどうであるかという探究的な視点をもって発表することができた。実施報告会参加者からは「日本と台湾のちがい、大樹町と大樹区の交流についてなど、海外に行かなければ気付けないことを学んできたのだと分かったので良かったです。」といった感想をいただけたことは評価に値すると考える。

⑤ 今後の課題

海外への見学旅行を価値付けるために、目的意識を明確にし、提示する事が大切である。目的を明確にすることで現地大学との交流や自主研修等にも漠然と臨むことなく、探究学習に繋げることができる。また、事前学習の内容や現地大学との交流内容の充実についても継続して検討していく必要がある。

学年の活動に留まることなく、生徒の3年間の成長過程の中に含まれる活動としての意義を見いだせるよう、よりよい計画・運営を行っていきたい。

(3)進路強化研修

① 目的

自らの今後の進路について集中的に探究することにより、自己についての理解を深めるとともに、個々に応じた進路活動の取組を充実させる。

② 対象生徒

3 学年生徒 25 名

③ 活動の概要

2024 年（令和 6 年）6 月 18 日（火）に 1 日（6 時間）かけて実施した。3 学年生徒は大学・看護コース 9 名、短大・専門学校コース 12 名、就職コース 4 名の 3 コースに分かれ、コース別に自らの進路活動に必要な取組を行った。以下、コースごとに取組の概要を記述する。

大学・看護コースは、主要教科による試験が課される大学や看護学校への進学を志望する生徒が対象である。必要な学力を確認し、目標に到達するための学習計画を立案するための取組として、午前中は実務教育出版の教材『基礎小論文 ワーク&添削』を購入して小論文指導を実施したほか、生徒たち全員と個別に面談を行い、学習計画を立案させた。その後は立案した学習計画をもとに自学自習を行い、学習の取組状況を実際に教員が見て必要な学習工程や取組について進路指導担当教員がアドバイスし、今後の実践につなげた。

短大・専門学校コースは、学校推薦型や総合型入試を利用する短大・専門学校受験志望者が対象である。入試の際には志望理由書等の作文や面接が必要となるため、1～2 校時には実務教育出版の教材『基礎小論文 ワーク&添削』を購入して小論文指導や自己 PR 作成指導を実施した。また、2 校時の後半では礼儀作法等の一般常識についての確認を行った。3～4 校時には学校法人桑園学園札幌情報未来専門学校マネージャーの小林佳紀氏をお招きし、「面接試験の目的とチェックポイントとは」と題する講演を行った上で、小林氏の指導による面接実技講座を実施した。5～6 校時には本校教員による模擬面接を行い、午前中の学習内容を踏まえながら生徒どうしで論評し合うことで、自らの面接姿勢の改善につなげる取組を行った。



就職コースは本研修以前に「話し方指導」講座と題して面接時にどのように自己をアピールするかを考察する取組を行っており、その成果を踏まえて 1 校時に北海道教育庁十勝教育局進路相談員の八幡裕樹子氏による模擬面接指導講座を受講した。さらに 2～4 校時は八幡氏と本校教員で模擬面接を実施し、面接態度や内容等を評価していただいた。5・6 校時は帯広市のホテル日航ノースランド帯広で開催されたジョブカフェ主催の合同企業交流会に参加し、十勝管内各企業の企業説明を受講した。

④ 成果及び評価

本年度の生徒は概ね第一志望の進路を実現することができているが、その結果に一定の寄与ができた研修であった。短大・専門学校コース、就職コースはいずれも面接練習が中心であったが、25 名中 25 名が何らかの面接・面談を経て合格を決めており、集中的に面接練習ができる機会をもつことには大きな意義がある。また、丸 1 日を研修とすることで外部講師、一般企業と交流しやすい日程を組むことが可能となっており、教員以外の視点から生徒の取組を評価していただく機会となっている。外からの目線で自らを捉え直すことで、その後の進路の見直しにつながった生徒もいた。

⑤ 今後の課題

本研修は面接を主たる評価方法とする進路先には一定の効果があるが、学力試験・体力試験等の選抜性の高い試験を希望する生徒に対して、どのような指導が可能かを考えていきたい。

(4) 室蘭工業大学連携授業

① 目的

出前授業を核として教科等横断的な学習を実施し、工学やモノづくりの情報に触れることで大樹町の科学技術産業に興味・関心をもつ生徒を増やす。

② 対象生徒

1 学年 26 名、2 学年 33 名

③ 活動の概要

令和 6 年度は 6 月 4 日（火）と 11 月 11 日（月）に合計 4 時間分の出前授業を室蘭工業大学の清水一道副学長と楠本賢太准教授に行っていた。

ア 令和 6 年 6 月 4 日（火）3 校時（1 学年）

「工学について－自動車工学概論－」と題して清水一道副学長が講義を行った。はじめに、清水教授の自己紹介、工学とはどのような学問なのか、社会にどのように貢献しているのか、どのような人が工学部へ進むのか説明を行った。その後、機械・ロボ工学が自動車から家電まで幅広い用途に利用されていることや、日本のものづくりの歴史、身の回りにある宇宙産業について説明を行った。最後に、社会人として必要な力やチャレンジすることの大切などキャリアに関わる内容のお話をいただいた。



イ 令和 6 年 6 月 4 日（火）4 校時（2 学年）

「工学の最先端－ロケット工学概論－」と題して清水一道副学長が講義を行った。はじめに、工学とは何を学ぶ学問なのかについて説明を行った。その後、航空宇宙工学の構成、航空機を飛行させる技術、空気力学、推進工学についての説明を行った。その後、宇宙開発の歴史や日本の宇宙政策、北海道における宇宙産業について説明を行った。最後に、コミュニケーション能力、前に踏み出す力、考え抜く力など社会人として必要な能力についてお話をいただいた。



ウ 令和 6 年 11 月 11 日（月）3 校時（1 学年）

「工学について－自動車工学 Vol.2－」と題して楠本賢太准教授がオンラインで講義を行った。はじめに、工学はモノを作ることによって人や社会を豊かにできる学問であることを説明していただいた。その後、流体力学や材料工学など様々な学問が組み合わされて効率的で安全な機械を作られているという説明を行った。最後に、機械工学の応用例について動画を交えた説明を行った。



エ 令和 6 年 11 月 11 日（月）4 校時（2 学年）

「工学の最先端－材料の科学－」と題して清水一道副学長がオンラインで講義を行った。はじめに、工学とは何を学ぶ学問なのか、社会にどう貢献しているのかについて説明を行った。その後、機械の仕組み、モノづくりや金属の加工法について歴史や意義、高校時代で意識してほしいこと、客観性を

持たせるための数字の大切さの説明を行った。最後に、これからのものづくりを題し、機械ロボ、航空宇宙、電気電子、情報を組み合わせた宇宙産業について説明を行った。

④ 成果及び評価

生徒の振り返りを見ると、「化学、物理、数学の公式や考え方を使ってモノづくりをしていることがわかった」「元素は中学や高校で学んだことなので、小さな連続の学びが工学につながるということがわかった」「身の回りのモノには鉄が使われている製品がたくさんあることがわかった」「モノが完成する過程で様々な分野、様々な人が関わっていることがわかった。」といった記述があり、教科間の学習の繋がりを意識させたり、モノづくりへの興味を引き出すことができたといえる。

⑤ 今後の課題

本校生徒の実態に合わせた講義を行ったが、理系分野の専門的な面白さを伝えるためには、どうしても数式や複雑な図解を用いる場面があるため、理系分野に興味をもっていた生徒とその他の生徒で熱量に差が出てしまう場面があった。今後は、事前に講義内容を把握し、関連する授業で事前学習を行うことで、より深い理解につなげていきたい。



3 学校設定科目「地域デザイン」

(1) 地域探究活動

① 目的

地域社会をテーマに、課題設定、仮説検証、まとめという探究のサイクルを体験することで、地域住民の一人として地元への理解を深め、郷土愛の醸成を目指すとともに、実社会の諸問題に対する課題解決能力を育成する。また、高校生議会での発信をととして、高校生として地域に貢献できることを考え、社会参加意識の育成する。

② 対象生徒

3 学年 25 名

③ 活動の概要

4 月～10 月に総合的な探究の時間を 46 時間分配当し実施した。

ア 令和 6 年 4 月 インTRODakション・課題設定（4 時間分）

探究活動の意義・目標・進め方を確認し、地域や世の中についての関心事と個人の関心事を深掘りするところから活動をスタートした。探究のテーマになりそうな関心事について、「やってみたい理由」「誰にどんな貢献ができるか」の視点で掘り下げ、自分の仮テーマを決定した。内容が近い仮テーマの生徒でグループを作成した。

イ 令和 6 年 4 月～5 月 事前調査・実地調査・仮説設定（5 時間分）

テーマについて、「知っていること」「知らないこと」を整理し、課題を設定するためにどんな情報が必要かをグループごとに考え、実地調査やアンケートの計画を作成した。得られた情報を元に、課題を設定し、課題に対する仮説を設定した。仮説を検証するために必要な活動を考えフィールドワークの計画を作成した。

ウ 令和 6 年 5 月～6 月 フィールドワーク・検証内容の整理（9 時間分）

大樹町役場や企業、給食センター等への訪問、道の駅で販売する商品の試作、町民の方との座談会等、各グループで計画した活動を行った。活動前後の空き時間を利用して、ここまでの活動をまとめて発表資料を作成する準備を行った。また、別日に追加でフィールドワークを行ったグループもあった。

参考 令和 6 年度 グループ別探究テーマ一覧

- 学生が気軽に乗れるバスをつくりたい
- 多くの観光客に行ってみようと思われるまちづくりをするには？
- 18 歳以下の遊び場について
- 移住者を増やすためには？
- 子どもたちの土日の移動手段
- 大樹町の福祉を充実させたい
- 道の駅の魅力を増やしたい！！
- 晩成温泉にもっと来てもらいたい！
- 安くて質の良い給食を提供するには
- 子どもも一緒に Moving Inn！
- ジェンダー(LGBTQ)への偏見や差別をなくすには？



エ 令和6年6月～7月 まとめ・発表準備（6時間分）

これまでの探究ノートやワークシートを元に、1グループ7分を目安にパワーポイントを用いて発表資料を作成し、発表に向けた練習も行った。発表では自分たちの考えの変容や提案も伝えることを確認した。

オ 令和6年7月18日（木） 成果発表会・振り返り（6時間分）

大樹町長・副町長、大樹小学校校長・教職員、大樹中学校長・教職員、大樹町教育長・教育委員、大樹町学校運営協議会委員、大樹高等学校活性化推進協議会委員、大樹町議会議員、3学年保護者、PTA 役員に案内文を送付し、本校体育館で成果発表会を実施した。また、2学年生徒も参加した。

3学年生徒はステージ上で発表後、質疑応答を行い参加者と意見交換を行った。成果発表会終了後、活動全体の振り返りを行った。今回の活動の振り返りをノートにまとめ、グループで相互にブラッシュアップし、高校生議会に向けて更に課題を深めていけるように促した。



カ 令和6年6月6日（木） 議会見学・一般質問傍聴（2時間分）

一般質問を傍聴し、議会の進行方法を理解し、地域探究活動のゴールとして高校生議会で発表することを確認した。

キ 令和5年8月～10月 一般質問通告作成作成・再質問作成（8時間分）

大樹町議会議員から助言を受け、一般質問通告や再質問の作成を行った。地域探究活動で取り上げたテーマについて、質問・提言をさらに具体化するとともに、町側が高校生の提案を町政に反映することが可能となるような議論の進め方を身に付けた。



ク 令和6年10月16日（水） 高校生議会（4時間分）

大樹町役場3階議場議員席で、高校生議会を開催した。前生徒会長による開催経過報告の後、1グループ15～20分以内で通常の議会と同じ形式で質問、答弁、再質問を行った。あらかじめ準備した質問・再質問だけでなく、答弁を聞き、その場で考えた質問や意見も発信することができた。



ケ 令和6年11月8日（金） 町長と語る会 in 大樹高校（2時間）

大樹高校図書室にて、「町長と語る会」を開催した。大樹町役場から、町長、総務課長、教育長をお招きし、1グループ30分の時間を設けて座談会形式で町の課題について話し合う場を設けた。高校生議会の延長として、各生徒がそれぞれ感じている町の課題やよりよい町の姿について、より深く協議することができた。



④ 成果及び評価

成果発表会までの活動で、地域の実情を理解した上で、課題設定、検証、まとめ、発表に生徒が主体的に取り組むことができた。発表の内容には調べたことだけでなく、高校生の立場からの提案も含まれていた。提案を考える過程で、自分たちの思い込みや希望ではなく、関係者へのインタビューやアンケートの結果を元に論理的な議論が行われていた。

高校生議会までの活動で、自分たちの提案を行政に反映させ、実現するためにどうしたらよいかを考え、発信することができた。議会の進行方法を理解する過程で、町政には多くの方が関わっていること、同じ課題でも立場によって見方が異なること、公の場での議論の進め方について学ぶことができた。

また、高校生議会の延長として「町長と語る会」を実施したことで、生徒が地域の課題について更に深く考え、知見を広げることができた。

授業外では、晩成温泉の PR 活動、道の駅での生徒考案スイーツの販売、町の大きなイベントである祭りの夜道を手作りランプで飾る活動、大樹神社宵宮祭での花手水考案など、高校生の立場で地域の活性化に貢献することができた。

⑤ 今後の課題

昨年度の反省を活かし、活動の序盤からグループに担当教員を割り振り、ある程度進捗を確認しながら計画的に活動を進めていくことができた。しかし、あらかじめ全体計画の周知をしたものの、活動期間が長期に渡るため、見通しを持って活動できるグループと、見通しが甘いグループがあった。特に、小学校・中学校に協力して頂き、アンケート調査をしたグループについては、スケジュール調整に難しさがあり、思うように調査が進まない、という場面もあったように感じる。

また、フィールドワーク等でインタビューした内容について、記録する方法に問題のあるグループが散見され、発表準備・まとめの段階で「事前調査で何をを教えて貰ったのか、何が分かったのか覚えていない」という状況が見られた。その結果、活動内容をスライドにうまく落とし込めなかったり、改めて考え直しているグループもあった。実地調査での情報収集方法や、記録の手法をより丁寧に指導したり、スライドに落とし込むイメージを早い段階で持たせていくことが必要であると考えます。

最後に、学校活動全体にいえることだが、教員は評価・改善を繰り返しながら毎年似たカリキュラム・活動を行うことが多いが、活動に参加する生徒にとってはすべて初めての授業である。教員側の経験値を活かして、年を経るごとに活動をより良いものにしようとする意識は大切だが、生徒の経験値はリセットされることを念頭に置き、今の生徒にとって活動の難易度や分量が適切であるかを考える必要がある。

(2) 航空宇宙産業に関する学習（大樹エアロスペーススクール 2024）

① 目的

JAXA の施設設備や専門的人材を活用した学習機会を提供し、次世代の人材育成・人格形成に関わる教育の場を提供する。宇宙航空分野のホンモノ体験、仲間との協働作業を通じて自身の将来や専門性についての気付きや考える機会を与えることを目的としている。

② 対象生徒

2 学年 1 名

③ 活動の概要

令和 6 年 8 月 6 日（火）から 9 日（金）までの 3 泊 4 日で、宇宙航空研究開発機構（以下 JAXA）と大樹町が主催する大樹エアロスペーススクール 2024 に、宇宙開発やロボット工学等に興味をもつ全国の高校生 19 名とともに、本校 2 学年の生徒 1 名が参加した。1 日の活動の中に講義・見学・実習がバランスよく含まれており、各プログラムで JAXA、インターステラテクノロジズ株式会社（以下 IST）、SPACE COTAN 株式会社（以下 SPACE COTAN）等で活躍されている方を講師に招き、貴重な体験をすることができた。

ア 講義

大気球による科学観測方法と測定の対象、大樹町でロケットを飛ばす理由、北海道スペースポートと宇宙のまちづくり、人工衛星を利用したスマート農業、サンプルリターンカプセル研究開発、キャリアパスについて、それぞれの専門家が講義を行った。研究や活動の紹介だけではなく、その背景や今後の見通しも含めて、わかりやすく中身の濃い内容であった。参加者との質疑に対しても、丁寧に対応していた。講義全体をとおして、「宇宙についての研究」といっても範囲は広く、様々な分野の人・知識・想いが一つになって、プロジェクトが進められていることが明らかになった。

イ 見学

JAXA 大樹航空宇宙実験場見学（格納庫・管制塔）、北海道スペースポート見学（大樹町宇宙交流センターSORA・滑走路）、IST 見学（実験場）を行った。見学では、機体の構造や装置の役割について、実物を見ながら説明を行った。格納庫や実験場は、よく写真等で取り上げられる場所でもあり、参加者は実物を肌で感じることもできた。

ウ 実習

ロボット農機は、走行するコースをあらかじめ設定しておくことで、発進・走行・停止が高い精度で制御されていた。ドローンにはカメラが取り付けられており、簡単な操作で上空からの映像をリアルタイムで確認することができた。また、モデルロケット作成・打ち上げ、ミッション報告会を行った。モデルロケット作成・打ち上げでは、ロケットの先端（コックピット）にパイロットに見立てた生卵を取り付け、安全性（生卵が割れないか）・高度・落下位置を競った。ロケットの作成方法について運営側から細かく指示は出さず、グループごとにパラシュートやコックピット内の構造に工夫を凝らしていた。ミッション報告会では、「2040 年の社会に広く貢献する『宇宙開発プロジェクト』を検討せよ。」という課題に対し、講義、見学・実習で学んだ内容を活かしてプレゼンテーションを行った。

④ 成果及び評価

高校の授業では触れることが難しい専門的な内容の説明や、普段目にすることのできないロケットの機体や実験施設を見学することで、参加者の宇宙工学への興味・関心をより一層引き出すこと

ができた。一般的には、宇宙工学と言えばロケットや人工衛星が連想されるが、人工衛星データを活用した農業や宇宙を活かしたまちづくりなど、幅広いテーマを扱うことで、参加者の宇宙に対する視野を広げることができた。

実習では、参加者が活動の目的を正しく把握し、各自の知識を持ち寄って積極的に議論を交わしていた。限られた時間の中でより良いものを作ろうという姿勢や、単なる想像や願望ではなく、現実や理論に基づいた議論を行おうという意識が見受けられた。

全体を通して、初対面の高校生 20 名が、宇宙に対する興味や関心を共有し、学校や進路、趣味に関するさまざまな話題で盛り上がり、交流を深めていたことが印象的だった。このように、普段は関わることのない同年代の仲間と顔を合わせて交流することは、非常に有意義な経験だと感じた。

令和 6 年 10 月 11 日（金）には、大樹町生涯学習センターにて、本校の生徒が町内の小学 5・6 年生、中学生を対象に、本活動についての報告を行った。

⑤ 今後の課題

本活動は本校担当者が明確になっていなかったが、次年度は参加する生徒の学年団から 1 名選出する予定である。また毎年担当者が変わるため、以下 2 点の情報を確実に引き継ぐ必要がある。

アドバイザーとして 3 泊 4 日の行程に同行したが、宇宙や物理についての専門的な知識を求められる場面はなく、個別プレゼンテーション、モデルロケット作成、ミッション報告会の際にファシリテーターとしての役割を求められた。活動が始まると、JAXA の担当者と打ち合わせる時間がほとんど取れないため、事前の打ち合わせで各活動の目的と到達目標を確認しておくといい。

本校参加生徒の選定については、例年、大樹町から「宇宙に興味関心がある生徒を 1 名」という条件で選ばれている。該当する生徒がいれば選定は容易だが、該当者がいない場合は選定に苦労することがある。今回、アドバイザーとして参加してみて、ロケットだけでなくロボットや天体、気象などに興味がある生徒でも十分に満足できる内容だと実感した。ただし、初対面の人とコミュニケーションを取ることや、大きな問いに対してアイデアを出すことが苦手な生徒にとっては、難しい活動であると感じた。

2024エアロスペーススクール 報告会

北海道大樹高等学校 2 年 T・Y

エアロスペーススクールとは

- ・ 高校生が協力して「宇宙・航空ミッション」に取り組む宿泊型プログラム
- ・ 目的は宇宙航空分野を支えるヒト・モノ・コトに触れ、自分自身の新たな可能性に出会うこと

一日目

- ・ 開校式
- ・ 講義：大気球実験で迫る宇宙の謎
- ・ 見学：JAXA大樹航空宇宙実験場
- ・ ミーティング：自己紹介・個別プレゼン

気球は一か月空を飛んでいられる！
地球3周の記録も！

- ・ 法律や寒暖差の影響で実際は3～12時間ほどが多い

二日目

- ・ 講義：北海道スペースポートと宇宙のまちづくり
人工衛星を利用したスマート農業
北海道から挑戦。宇宙産業の可能性

- ・ 見学：北海道スペースポート
インターステラテクノロジズ株式会社・実験場
- ・ 実習：ドローンによる解析作業
ロボットの農機の体験
モデルロケット製作

人が少なくなる、土地は変わらない

→負担が大きくなる



スマート農業

- ・衛星
- ・ドローン
- ・トラクターの自動操縦

三日目

- ・講義：将来のサンプルリターンカプセル
研究開発と気球実験
- ・実習：モデルロケット打ち上げ・片付け
- ・進路相談会
- ・お土産購入
- ・ミーティング：ミッション報告会準備

なぜ小惑星に探索に行くのか

→太陽系が誕生した当時の姿を
残しているかもしれないから

小惑星

→火星と木星の間にあって太陽の周りを
公転している数多の小さい天体



太陽から遠く、低温

再突入カプセルは
12 km/s以上で突入する！

問題点

- ・空気加熱
→高温・高密度
- ・動的不安定領域
→振動が激しくなる





大事件発生





四日目

- ・プレゼンテーション準備
- ・ミッション報告会
- ・閉校式



伝えたいこと

- ・宇宙は身の回り様々なことに使われている
- ・初めてあった人でも怖がらずに話しかけてみる
- ・実験をするときは周りをよく確認すること

ご清聴ありがとうございました

(3) 航空宇宙産業に関する学習

(北海道宇宙サミット 2024 参加・連携教育会議出席)(和歌山県古座串本高校視察・和歌山大学訪問)

① 目的

大樹町における航空宇宙産業を活用した町づくりを題材とする地域探究学習について、効果的かつ継続的な教育連携及び、地域に根ざした教育を推進するため、高校や大学とのコンソーシアム構築を視野に入れた連携協議を進め、持続可能な教育連携体制の充実を目指す。

② 対象生徒

宇宙ボランティアサークル 7名

③ 活動の概要

ア 「北海道宇宙サミット 2024」へのボランティア参加・教育連携会議の参加

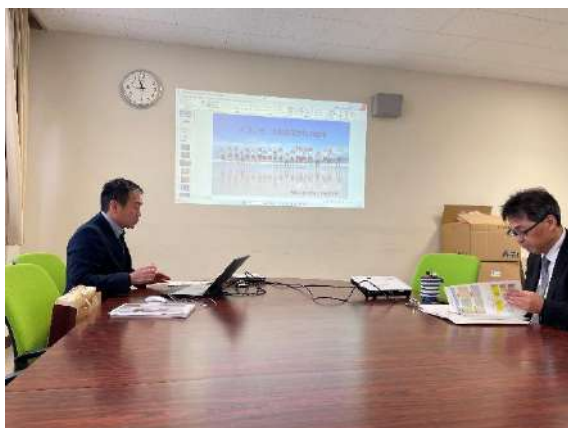
令和6年10月10日(木)民間に開かれた商業宇宙港「北海道スペースポート」を舞台に行われる国内外から多様な参加者が集う宇宙ビジネスカンファレンスの運営サポートを行った。また、本校と同じくロケット発射場を地域に持ち、宇宙関連の授業を有する普通科改革推進事業に取り組んでいる和歌山県串本古座高校、大分県国東高等学校関係者も参加してしており、現状報告と今後の連携教育に関しての意見交換を行った。



イ 和歌山県立串本古座高等学校・和歌山大学秋山教授訪問

令和7年1月14日(木)～17日(日)、先の教育連携会議を経て、連携の目的、方法についての視察、意見交換を行った。今年度4月串本古座高等学校は、「地域創造学科」に改変し、地域探究・宇宙探究・文理探究の3つのコースに改め、平成28年度から魅力化プロジェクト「地域まるごとキャンパス構想」として豊富な地域資源を活用した(例:「マリンスポーツ」「水産生物研究」「ジオパーク学」「南紀食文化研究」「串本デュアル」など)取り組みを地域協議会の協力を受けて取り組んでいる。本校との連携については、地域産業資源(JAXA 大樹航空宇宙実験場・北海道スペースポート・インターステラテクノロジズ・スペースポート紀伊・宇宙ふれあいホール Sora-Miru)を活用した宇宙教育連携、リモートで行なう宇宙関連講座の連携授業の他、地元開催イベント「宇宙シンポジウム串本「北海道スペースサミット」での生徒交流の提案があった。

和歌山大学秋山教授の訪問では、現在本校で実施しているモデルロケット制作のアドバイスと実際に和歌山大学にて制作されている状況を見学した。発展的には、秋山教授が関わっている「MBSEを活用する宇宙アーキテクト育成プログラム」への参加も考えられる。今回の訪問では、宇宙関連の「ものづくりを通じて『コト作り』を行なう」という視点についてご教示をいただくことができた。「町づくり」「町興し」の学習において俯瞰的な視点を育てることができる取り組みだと考えた。



④ 成果及び評価

ア 「北海道宇宙サミット 2024」における成果

生徒はサミット運営を通じて、国内外の参加者と直接交流する機会を得た。その結果、航空宇宙産業に対する興味・関心を深め、グローバルな視点を持つことができた。また、教育連携会議において、和歌山県立串本古座高等学校との交流のきっかけを築くことができた。

イ 和歌山県立串本古座高等学校訪問の成果

地域資源の活用方法について具体的なイメージを得ることができ、大樹町の地域資源との比較を通じて新たな探究の視点を得た。

宇宙関連のオンライン授業や「宇宙シンポジウム串本」への参加といった、具体的な教育連携の可能性を検討できた。

生徒が串本古座高等学校の地域資源を体験することで、大樹町の地域資源に多角的な視点を持ち、地域探究学習の深化につながることが期待される。

⑤ 今後の課題

今回の活動で得られた知見を基に、以下の点を重点的に取り組む。

和歌山県立串本古座高等学校との連携を強化し、オンライン授業の実施やシンポジウムへの生徒参加を具体化する。また、大樹町の地域資源を活用した探究学習をさらに深化させ、生徒の興味関心を引き出すとともに、地域社会との連携を強化する。更に航空宇宙産業をテーマにした学習活動を継続し、地域活性化のモデルケースとしての教育活動を推進する。目標として生徒が地域に目を向け、国際的な視点を持って地域の課題に向き合える生徒を育むため学校設定科目として編成していけるものを検討していく必要がある。交流の中で開始時期や頻度、人数、交流する学校や産業など調整を計り、検討を重ねていきたい。

4 大樹スタンダードにおける取組

(1) CST (コミュニケーション・スキル・トレーニング)

① 目的

ア 第1学年

- ・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。
- ・自らの可能性に気づき、様々な場面で主体的に挑戦する意欲と行動力を育む。

イ 第2学年

- ・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高めあえる集団を作る。
- ・様々な場面で自ら挑戦する意欲と行動力を育む。

ウ 第3学年

- ・自分の行動が周りにどのような影響を与えるかを考えて行動する意識を育てる。
- ・自己管理能力の育成。

② 対象生徒

北海道大樹高等学校 1学年 26名、2学年 33名、3学年 25名 計 84名

③ 活動の概要

令和6年度(2024年度) C S T

1学年 第1回目：令和6年 5月10日(金)

第2回目：令和6年10月17日(木)

令和6年10月28日(月)

2学年 第1回目：令和6年 5月9日(木)

第2回目：令和6年 9月27日(金)

3学年 第1回目：令和6年 5月15日(水)

第2回目：令和6年11月25日(月)

1学年



<力を合わせて>

2学年



<リフレーミング>

3学年



<ジャングル探検>



<あなたのことが知りたい>



<火星に誰を連れて行く？>



<自分の力で生きていく>

④ 成果及び評価

1 学年 1 回目「心とからだのエクササイズ」

「あなたのことが知りたいの。教えて！インタビューゲーム」

2 回目「インターンシップに向けて～ビジネスマナー 電話編・当日編」

十勝南部を中心に様々な中学校から来ている集団が1年A組になりまだ日も浅い5月上旬。緊張感が漂うなか、「自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る」「自らの可能性に気付き、様々な場面で主体的に挑戦する意欲と行動力を育む」を目的にCSTを計画・実施した。

第1回目は、他者に関心を持ち、3年間ともに過ごす仲間としての意識を高めることや、コミュニケーションの基本を学ぶとともに、自己理解、他者理解を深めることを目標に実施した。最初の心と体のエクササイズでは、非言語的コミュニケーションのみでグループを作るのに時間を要したが、その場を仕切ることのできる生徒が現れた。また、ペアでのショートエクササイズにより、場の雰囲気や、他者と接する活動に対する心と体の緊張感を緩和することができた。本時間のメインである「あなたのことが知りたいの。教えて！インタビューゲーム！」では、相手に声をかけるときの基本・ルールを学び、多くの生徒と実際にインタビューすることで、コミュニケーションの基本をもとに、人との正しい関わり方を学ぶことができた。また、質問紙により自己理解、インタビュー形式により他者理解を深めることができたのではと考える。さらに、各々の生徒が、これからの3年間とともに過ごす仲間として、互いを尊重し認め合い、心地よいクラス作りに参加できるよう期待したい。

第2回目は、11月上旬実施のインターンシップ実施に向けて、起こりうる場面状況に応じて、適切な言葉で対応することができることを目標に実施した。

電話の受け答えの仕方や、場面設定に合った受け答えを考えさせ、グループ内で意見交換し、ベストアンサーをつくりあげることができた。

クラスメイトを何気なくフォローしたり、困っている場合には周りに相談をし、早期に対応し解決することができた。その時々で生徒たちが考えて動くことができるような集団になってきている。

2 学年 1 回目「アイスブレイク」、「リフレーミング～短所を長所に変える」

「火星に誰を連れて行く？（コミュニケーション、人間関係形成、合意形成）」

2 回目「ドラえもんから学ぶ～アサーショントレーニング」

第1回目前半は仲間から肯定的に評価されることで、自分自身の魅力に気づき、自己肯定感を高めることを目的として、リフレーミングのトレーニングを行った。

自分の短所と長所を数えると、圧倒的に短所が多く、長所についてはなかなか出てこなかった。また、自分が思う自分の良さではなく、人から見た自分の良さを探そうとするため出てこないという生徒も見受けられた。そこで自分の短所をグループの仲間にもリフレーミングしてもらうことで、自分では気づかなかった自分の魅力を発見し、さらに相手の短所をリフレーミングすることで相手に対する見方が変わることを体験した。リフレーミングが難しい生徒もいたが、仲間同士で助け合い、終始和やかな雰囲気となった。生徒たちからは「自信がついた」「嬉しかった」「いいところを見つけてくれてありがとう」などといった感想があ

った。

後半は、相手に伝わるように筋道を立てて意見を述べる、複数の意見をすり合わせ、合意形成を図ることを目標としたトレーニングを行った。自分が火星に行くとしたら誰を連れて行くのかという設定が、現実離れしていたことから頭を抱える生徒もいたが、自分の知識や生活体験を元に考えたり、自由な発想で設定を付け加えたりしながら、自分なりの答えを出していた。自分がなぜそれを選んだのか相手にわかりやすく伝えることが苦手な生徒も多いが、話し合いの中で活躍した人を選ぶという課題を与えていたため、相手を見て頷いたり、聞いたり、話し終わったときに拍手をするなどして、意見を言いやすい雰囲気作りをする生徒が現れ、全員が意見を発表することができた。正解がない問いは自分の意見を伝えやすい反面、みんなの意見をまとめるのが難しいものだが、だからこそ自分の意見を相手に伝え、議論し、合意形成を図ることが大事であることを学んだ。

第2回目は見学旅行に向け、アサーティブなコミュニケーションについて学んだ。まずは日常よくみられるトラブルのロールプレイをみて、自分のタイプ（攻撃型・非主張型・カメレオン型・アサーティブ型）を知ってもらった。大半の生徒は相手を尊重しつつ自分の意見を伝えることができるアサーティブ型であることがわかった。次に、学校生活でありがちな事例から、自分も相手も気持ちよく、アサーティブにコミュニケーションをとるためにはどうしたらいいのか、KJ法を用いてグループで話し合った。生徒たちは望ましいコミュニケーションの取り方についてよくわかっていて、たくさんの意見が出てきた。他のグループの発表を聞き自分たちとは違った視点でのコミュニケーションの取り方に、感銘を受けている生徒も見られた。

スキルトレーニングではうまく解決できても、実際の学校生活では、言いたいことが言えずもやもやした気分でもどしてしまったり、キツイ言い方をされ傷ついてしまったり、逆に傷つけてしまったりといったトラブルが多々見られる。今回のトレーニングだけで身につけるのは難しくとも、アサーティブなコミュニケーションが良好な人間関係を築くためにも大事なスキルであることを理解できたと思いたい。

3 学年 1 回目「アサーショントレーニング：シチュエーション対応力」

2 回目「ソーシャルスキルトレーニング：自分の力で生きていくために必要なこと」

「自分の行動が周りにどのような影響を与えるかを考えて行動する意識を育てる」「自己管理能力の育成」を目的に CST を計画・実施した。

第1回目は、好ましい意思決定とコミュニケーションの基本姿勢についての実践や頼まれごとを断る3つのスキルについて学び、社会に出ていく準備、対応力を身に付けることを目標に実施した。各グループ内で演技役を決め、役になりきり順番に発表をすることができた。ロールプレイを通して、相手の発表を進んで傾聴する姿勢や態度を身に付け、また状況に応じた上手な断り方ができるようになるよう回答を準備することができた。

第2回目は、「自立」について考え、自分に足りない（弱い）ところに気づき、残りの学校生活の課題・目標とすることや自分の未来に明るい展望を持つことができることを目標に実施した。4つの自立のキーワード「社会的自立」「生活的自立」「精神的自立」「経済的自立」を知り、卒業後の新たな生活がスタートするにあたり、自分の力で生きていくためにはどん

なことが必要なのか考えることができた。

活動に対して意欲的で、グループワークの際には非常に協力的に取り組んでいた。些細なことでも何かを学ぼうとする姿勢が見られた。

⑤ 今後の課題

全校生徒が落ち着いた学校生活を送ることができているが、個々の抱える課題は大きい。学習に関すること、生活に関すること、心身に関すること、家庭に関することなどさまざまである。特に自己肯定感の低さ、助けを求める力の弱さは昨年度に続き、大きな課題と感じている。

日頃からの生徒との関わりや CST の要素を意識した授業を展開するなどの指導が今後も必要で、そのスキルを得られるよう、研修や共通理解を図ることが必要であると感じている。また、本校では子ども理解支援ツール『ほっと』を活用し教育相談を充実させ、生徒一人一人に寄り添い、向き合いながら、今後も意識して取り組んでいきたい。

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校

日 時	令和6年5月10日（金）	場 所	ネイパル足寄
教 科	宿泊研修	授 業 担 当 者	◎森、別段、越出
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	1年A組【男子13名・女子12名】 *女子1名不参加（藤谷）
本 時 間	① 心とからだのエクササイズ ② あなたのことが知りたいの。教えて！インタビューゲーム		
1学年の目標	自己理解・他者理解、個性尊重、互いに認め合える集団作り		
本時の目標	●他者に関心を持ち、3年間ともに過ごす仲間としての意識を高める。 ●コミュニケーションの基本を学ぶとともに、自己理解、他者理解を深める。		
教材・教具	ワークシート（インタビューシート）（振り返りシート） クリップボード		

◇：MT ◆：ST ☆：備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
導 入 (5分)	挨拶 本時のねらい	・号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・本時のねらいを確認する。	◇CSTを通して伸ばしたい力を伝える。 ☞他者を思いやり、互いの人格を尊重する力。 ☞発信する力。
展開① ショートエクササイズ (15分)	心と体のエクササイズ	仲間集め ・非言語的コミュニケーションのみで、テーマに応じてグループを作る。（誕生月、血液型） 力を合わせて ① ペアで背中合わせに腕を組んで座り、立ち上がる。男女別に実施する。（2人→4人→6人→全員） 《指導のねらい》 場の雰囲気や、他者と接する活動に対する心と体の緊張感を緩和する。	☆非言語的コミュニケーション ～ 身振り、手振り、表情のみ。（言葉や筆談は不可） ◇テーマを伝える。 ◆『力を合わせて』では、MTの解説に合わせてSTが手本を示す。 別段T、越出Tをお願いします。 ◆活動内容が理解できていない、または参加できていない生徒がいたら声をかけ、補助する。
展開② (25分)	あなたのことが知りたいの。教えて！インタビューゲーム！	・ロールプレイを見て、インタビュー（相手に声をかけるとき）の基本、ルールを学ぶ。【5分】 ・実際にインタビューする。 *インタビュー相手は、一人1回までとし、多くの生徒と関わってもらう。【20分】 《指導のねらい》 コミュニケーションの基本をもとに、人との正しい関わり方を学ぶ。また、質問紙により自己理解、インタビュー形式により他者理解を深める。	◆ワークシート、クリップボード配布 ◆MTの解説に合わせてSTが手本を示す。 ① 挨拶②自己紹介③質問の許可をもらう ④質問⑤相手の返答⑥サインをもらう ⑦挨拶 ・質問項目について、自分のことを話した後、相手の話を聞くこと。 ・シートの上段には自分のこと、下段に聞き取ったこと、さらにサインをもらう。 ◆動けない生徒にはサポートし、多くの人にインタビューするよう促す。

まとめ (15分)	本時のまとめ 自己評価	・集団の雰囲気、個々の緊張感や苦手意識に変化が感じられることに気づく。 ・活動を振り返り、ワークシート（振り返りシート）に記入する。 ・シェアリング 【ここまで12分】 ・まとめ ・ワークシートをMTに提出する。 《指導のねらい》 これからの3年間をともに過ごす仲間として、互いを尊重し認め合い、心地よいクラス作りに参加できる。（共生・共創）	☆自他を理解することで新たな関係性を築き、これからの学校生活に期待を持たせる。 ◆ワークシート（振り返りシート）配布。 ・まとめ・越出、森、別段の順で一言ずつ
----------------------	---------------------------	--	--

◎準備物【生徒】 筆記用具、楽しむ気持ち

【教員】 クリップボード、ワークシート、振り返りシート、楽しむ気持ち

学 習 指 導 案

日 時	令和6年10月17日（木） 6校時	場所	第1講義室
教 科	LHR	授業担当者	◎ 英 、 別 段 、 昆 、 越 出
単元名	コミュニケーションスキルトレーニング	対象者	1年A組 26名（男子14名・女子12名）
本時間	インターンシップに向けて ～ ビジネスマナー 電話編		
目標	系統的なトレーニングを行い、学校および社会の中で円滑な人間関係を築くために役立つコミュニケーション能力の向上を図る		
本時の目標	インターンシップで起こりうる場面状況に応じて、適切な言葉で対応することができる。		
教材・教具	パソコン、資料、担当者情報		

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆筆記用具、実習口誌をもって第1講義室に集合。 ☆席は指定無し。	
導入 (5分)	挨拶 本時のねらい	・日直が号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・学習の流れを確認する。 ・グループごとに机を寄せて座る。	・目的を伝える。 インターンシップにおける事前電話で起こりうる様々な場面に対応するコミュカを身につけよう！ ・学習の流れを説明する。 ・グループをつくる。 5人×4G、6人×1G
展開② (40分)	ビジネス マナー	・動画を視聴する。 ・資料（ビジネスマナー電話編①）にある会話の内容について、ダメなところ、改善点などをグループ内で考える。 ・発表する。 ・資料（ビジネスマナー電話編②）を使って、事前連絡（自分用）の準備をする。 ・準備ができたなら、グループ内でペアを組み模擬トークをする。	・「ビジネスマナーの重要性」についての動画を流す。 ・資料（ビジネスマナー電話編①）にある会話を模擬演技する。 ・活動内容を理解できていない、または参加が難しい生徒をフォローする。 ・活動内容を理解できていない、または参加が難しい生徒をフォローする。
まとめ (5分)	本時のまとめ	・資料をファイルに保管する。	・時間があれば2～3人に感想を尋ねる。

- ①電話をかけるときの準備
- ・話す内容、順序など簡単にメモをする
 - ・相手の電話番号、氏名などを再度確認する
 - ・必要な資料や書類は手元に準備する
- ②話すときの注意
- ・結論から先に話す
 - ・重要な点は復唱し、確認する
 - ・相手と実際に面談している気持ちで接する
- ③その他
- ・担当者が不在だったら？
 - ・予期せぬ質問をされたら？

学 習 指 導 案

日 時	令和6年10月 28日(月) 6校時	場 所	視聴覚室
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎森、別段、昆、越出、英
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	1年A組 26名(男子14名・女子12名)
本 時 間	▶ インターンシップに向けて ～ ビジネスマナー・当日編		
目 標	系統的なトレーニングを行い、学校および社会の中で円滑な人間関係を築くために役立つコミュニケーション能力の向上を図る。		
本時の目標	・インターンシップで起こりうる場面状況に応じて、適切な言葉で対応することができる。		
教材・教具	ワークシート(A3版、4枚)、ペン(細め、4本) タイマー(タブレット)4つ		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆タブレットをもって視聴覚室に集合。 ☆席はグループごとに指定する。	☆履歴書作成時のグループを利用する。
導入 (5分)	挨拶 本時のねらい	・日直が号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・学習の流れを確認する。	◇目的及び伸ばしたい力を伝える。 ☞ インターンシップで起こりうる様々な場面に 対応するコミュカを身につけよう！ ◇学習の流れを説明する。
展開② (40分)	ビジネス マナー	① ワークシートにそって、場面設定に合った受け答えを考える。グループメンバーで意見交換し、ベストアンサーをつくりあげる。 ●あいさつ(10分) ●こんな時、何という?(15分) ●返事、報告(15分) ・グループ内でロールプレイをする。	◇◆ワークシートにそって、場面設定に合った受け答えを考えさせる。グループ内で意見交換してベストアンサーを作ることができるよう導く。 活動内容が理解できていない、または参加が難しい生徒をフォローする(別段)。 ◆ベストアンサーを記入する。
まとめ (5分)	本時のまとめ		*学年主任よりまとめの話

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 生徒指導部

日 時	令和6年5月9日（木） 5校時	場所	体育館
教 科	LHR	授業担当者	◎渡邊、大寺、宮崎、安達、林
単元名	コミュニケーションスキルトレーニング	対象者	2年A組 33名（男子8名・女子25名）
本時間	▶ アイスブレイク ～ ▶ リフレーミング ～ 短所を長所に変える		
学年目標	・自他の個性を認め、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	・仲間から肯定的に評価されることで自身の魅力に気づき、自己肯定感を高める。 ・自他の個性を受け入れ、大切な存在であるという価値観を深める。		
教材・教具	デジタイマー、パソコン、プロジェクター、クリップボード33冊 別紙①：リフレーミングプリント		

◇：MT ◆：ST ☆：備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
導 入 (3分)	挨拶 本時のねらい	・〇〇が号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・本時のねらいを確認する。	☆体育の始めの隊形（横2列）に整列 ◇CSTのねらいを伝える。 ☞ 自分自身のよさを知り、生きる力に。 ☞ 『ペップトーク』 縛りで前向きに。
展開① (7分)	グループ決め アイスブレイク	・床に置かれたトランプをとる。 ・しゃべらずに、同じ数字の人で集まる ・4×8G、5×1G 作る （2人・3人になったところでひとグループ） 「よろしく」と挨拶する	◆カードを床に並べる （1～8は4枚、9は2枚10は3枚） 《指導のねらい》 誰と一緒にいてもグループの話し合いに貢献できるよう努める。
展開② (30分)	リフレーミング ～短所を長所に変える	・リフレーミングの意味や方法を知る。 ① 自分のウィークポイントがいくつあるか数える。 1分間 ② 自分のストロングポイントがいくつあるか数える。 1分間 ③ リフレーミング（別紙①）に、自分のウィークポイントを記入する。 （最大4つ） 5分間 ④ 画像を見る。どのように見えるか周りと共有する。 ※見方を変えると見えるものがあることに気づく。 5分間 ⑤ クリップボードを回し、相手の短所をリフレーミングして記入（別紙①） 自分が知ってる良さも付け加える 10分間 ⑥ 別紙①を見て、自分のストロングポイントを記入する（別紙②） ～ 自分では気付かなかった魅力を発見する。短所を前向きに捉える。 ⑦ グループで発表しあう 【5分間】	◆クリップボード&ワークシート配布。 ◇自分のウィークポイントとストロングポイント、どちらが多く出てきたか聞いてみる。 《指導のねらい》 人は自分のフレームでものを見る。見方を変えることで気づかなかった見え方をすることができることに気づく。 ◇◆活動内容が理解できていない、もしくは参加が難しい生徒をフォローする。 ◆リフレーミング辞典（別紙③） 配付 ◇別紙①を参考に仲間の良いところを記入 《指導のねらい》 短所も見方を変えれば長所であることを知り、自分自身を認める気持ちを持つ。
まとめ (10分)	本時のまとめ	・感想を発表する。（2名程度） ・ふりかえりシートの記入（ ・相手を褒めることや、ポジティブな言葉で表現できている自分に気付く。	◇休憩時間 10 分、デジタイマーをセット ☆6h の開始を早める。

例えば・・・
(先生方にふる)

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 生徒指導部

日 時	令和6年5月9日（木） 6校時	場 所	体育館
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎渡邊、大寺、宮崎、安達、林
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	2年A組 【男子8名・女子25名】
本 時 間	火星に誰を連れて行く？（コミュニケーション、人間関係形成、合意形成）		
学 年 の 目 標	自他の個性を認め、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	●相手に伝わるように、筋道を立てて意見を述べることができる。 ●複数の意見をすり合わせ、合意形成を図ることができる。		
教材・教具	ワークシート（火星に誰を連れて行く？）（振り返りシート） デジタイマー		

◇：MT ◆：ST ☆：備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
導 入 (10分)	挨拶 本時のねらい 本時の活動	・〇〇が号令をかける。 ・本時のねらいを確認する。 ・『火星に誰を連れて行く？』の概要を知る。	◇課題を通じて伸ばしたい力を伝える。 ☞ 自分の意見を相手に分かりやすく伝える力。 ☞ 複数の意見をすり合わせて合意形成を図ることができる。 ◇◆説明
展開① (25分)	火星に誰を連れて行く？	①グループで、司会者・記録者・発表者係を決める。 ②【個人で】（5分間） 1）10人選ぶ ③【グループで】（15分間） 1）互いの意見を発表する 2）8人選ぶ。選んだ理由も考える。 ④ 発表準備（2分間） 1）発表の内容を確認する。	◆各グループに必要な物品が行き渡っているか確認する。（ワークシート、クリップボード、マーカー） ◇◆グループの活動の様子に応じて、助言や促し等の支援をする。 《指導のねらい》 ・自分の意見を整理して伝える。 ・異なる意見を受け入れ、グループとしての見解を導き出す。
展開② (15分)	発表	・各グループの発表者が発表する。 ・他のグループの発表を聞き、様々な考え方があることに気付く。 ・一人だけの意見にも耳を傾け、受け止めることができる。	◇発表の仕方、聞く態度を確認する。 ・聞く姿勢（体の向き、視線、頷き等） ・発表後、拍手をする。
まとめ (10分)	本時のまとめ 自己評価 講評 挨拶	・活動を振り返り、ワークシート（振り返りシート）に記入する。 ・話し合いや発表の様子について、教師からの講評を聞く。 ・ワークシートをMTに提出する。 ・〇〇が号令をかける。	◇◆ワークシート（振り返りシート）配布。 ◇◆話し合いや発表の様子を振り返り、良かった点と改善が期待できる点について伝える。

☆ 時間が超過した場合、振り返りシートの記入は時間外になります。

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 生徒指導部

日 時	令和6年9月27日（金） 5／6校時	場 所	体育館
教 科	LHR	担 当 者	◎渡邊、宮崎、大寺、安達
単 元 名	第2回 コミュニケーションスキルトレーニング	対象生徒	2年A組 【男子8名・女子25名】
本 時 間	ドラえもんから学ぶ ～アサーショントレーニング		
2学年目標	個性を尊重し合い、豊かな心を持って、相乗効果を発揮できる集団を作る。		
本時の目標	●互いの意思を尊重したコミュニケーションの在り方を考える。 ●自分の言動が周りに与える印象と影響に配慮して発信する意識を育てる。		
教材・教具	ワークシート（アサーショントレーニング/こんなとき、どうする?）、付箋紙（ピンク・黄・水色） クリップボード33冊、デジタイマー、パソコン、プロジェクター、模造紙、マジック（8セット）		

◇：MT ◆：ST ☆：備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援								
5時間目 10分	集合 本時の説明 エクササイズ	・整列・号令 ・今日の流れを確認する	筆記用具はステージ上に置くよう指示 ◆宮崎 T：グループ分け 8班（4人×7、5×1）								
導 入 (7分)	アサーションとは	・自身のコミュニケーションタイプを知る。（シーン①～⑤） ・コミュニケーションには、大きく分けて4つのタイプがあることを知る。 → <table><tr><td>攻撃的タイプ</td><td>（ジャイアン）</td></tr><tr><td>非主張的タイプ</td><td>（のび太）</td></tr><tr><td>アサーティブタイプ</td><td>（しずかちゃん）</td></tr><tr><td>カメレオンタイプ</td><td>（スネ夫）</td></tr></table>	攻撃的タイプ	（ジャイアン）	非主張的タイプ	（のび太）	アサーティブタイプ	（しずかちゃん）	カメレオンタイプ	（スネ夫）	◆5つの場面を演示する。 ④大寺 t、⑥宮崎 t、⑦安達 t、 （ジャイアン） （のび太） （しずかちゃん） 《指導のねらい》 アサーティブなコミュニケーションとは、自分も相手も大切にするコミュニケーションであることを理解する。
攻撃的タイプ	（ジャイアン）										
非主張的タイプ	（のび太）										
アサーティブタイプ	（しずかちゃん）										
カメレオンタイプ	（スネ夫）										
展開① (30分)	こんなとき、 どうする？ ～アサーティブに 解決しよう！～	事例検討～KJ法でまとめよう 『クラスレクの企画』 ・事例についてロールプレイをする。 ・KJ法でグループの意見をまとめる。 1) 個人の意見を付箋に書く（10分間） 2) カテゴリー分け&意見交流（20分間） 3) タイトルや補足等を記入 ↓ 結論 アサーティブな対応を導き出す。	◇全体指導、計時。 ◇◆ロールプレイがスムーズに進められるようフォローする。 ◇◆KJ法の運営をする。（2班ずつ担当）								
休憩 (10分)		休憩時間に 他のグループのまとめを見て回っても 良い									

発表 (20 分)		・ 成果を発表する。 ・ よいアイディアはメモする。 ・ <u>自分も相手も大切にするコミュニケーションの在り方を知る。</u>	《指導のねらい》 自分自身は？あの時のあれって？と、振り返ったり、実際の場面で気付きにつながるよう導く。
展開② (10 分) ※時間調整	日常のトラブル	<u>様々な立場にいる仲間の気持ちに立って考える。</u> 『話を聞いていない人』『適当に流される人』『参加したくてもやり方が分からない人』 個人で考える グループでシェア 難しい場合はグループで一つ選ぶ。	◇◆手が止まっている生徒への声かけ。 ◇生徒の様子をみて、難しそうならできそうな課題を1つだけ考えさせる。
まとめ (10 分)	本時のまとめ 振り返り	・ ワークシートに感想を記入する。	◆安達 t（・宮崎 t）より まとめ&今後に向けて ◇ワークシートと物品の回収を指示する。

※ このあと別件で給食に関する話があります。

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校

日 時	令和6年5月15日（水）	場 所	体育館
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎吉田、大崎、高谷、南部
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	3年A組 25名【男子10名・女子15名】
本 時 間	アサーショントレーニング：「シチュエーション対応力」		
3学年の目標	自己決定・行動選択、他者理解、個性尊重、思いやりの気持ち		
本時の目標	●好ましい意思決定とコミュニケーションの基本姿勢について実践する。 ●頼まれごとを断る3つのスキルについて学び、社会に出ていく準備、対応力を身に付ける。		
教材・教具	ワークシート、（振り返りシート）、役割カード、クリップボード、マジック		

◇：MT ◆：ST ☆：備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
導 入 (20 分)	挨拶 本時のねらい	・号令をかける。 ・本時のねらいを確認する。 ・ロールプレイを見る	◇説明：吉田 本時の流れを掲示 ロールプレイを見せる【別紙シナリオ】 事例1：上司役：大崎、部下役：南部 （ゴルフ）心の声：高谷 事例2：先輩役：南部、後輩役：大崎 （酒）心の声：高谷 ☞部下、後輩役はどんな返しをすることが望ましいか考えさせる。 3つのポイント掲示・説明（吉田）
展開 (55 分)	グループ分け ワークシート記入 グループ内発表	・ジャングル探検 →4人1組になる。 （4人5G、5人1G） - 事例1の3G、事例2の3Gに分ける ・リーダーはワークシートを取りに行く。1、2を記入。 ・最初の発表者を決め、右手側を上司、先輩役として順番に発表する。	◇吉田の号令で始める （※スタートの並びは出席番号順） 事例1：ステージ側（進行：大崎） 事例2：更衣室側（進行：南部） ワークシート、マジック配布（高谷・吉田） ※先輩、上司役がメインにならないように十分考慮する。 ※活動内容が理解できていない、または参加できていない生徒がいたら声をかけ、補助する。
	《指導のねらい》 相手の発表を進んで傾聴する姿勢や態度を身に付ける。		
	役割分担 事例ごとに発表	・グループの中で1番良いと思った回答を決め、良かった点をワークシートに記入する。 ・グループの中でどの回答がふさわしいかを話し合った上で発表用シートに回答を記入する。 ・演技役3人、記入役1～2人を決める ・演技役は役になりきり順番に3つのセリフを発表する。 ・記入役は紙を持つ ・発表用シートを並べ、どのグループの発表が1番良かったかワークシート3に記入する。	・発表者の方に体を向ける、批判的な態度を取らない、拍手をする等、聴く態度を意識させる。 ・良い発表者の意見をそのまま記入するのではなく、より良い回答を導くように話し合わせる。 事例1：上司役：大崎、部下役：生徒 事例2：先輩役：南部、後輩役：生徒

		多数決を取ってベストオブCSを決定する。	ベストオブCSのグループは全体発表があることを事前に伝え、断り切れなかった場合の回答も準備させる。
	《指導のねらい》 状況に応じた上手な断り方ができるようになる		
まとめ (25分)	本時のまとめ 自己評価	- 全員ステージ前に移動し、事例1、2のベストオブCSのグループは前で発表する。 - 担任から一言コメントをもらう。 - ワークシートに自己評価と感想を記入する。 号令をかける。	発表用シートの掲示（吉田） 事例1：上司役：大崎、部下役：生徒 事例2：先輩役：南部、後輩役：生徒

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 第3学年

日 時	令和6年11月25日(月) 5・6校時	場 所	体育館
教 科	LHR	授業担当者	吉田 大崎 南部 高谷
単 元 名	第2回コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	3年A組 男子10名、女子15名
本 時 間	ソーシャルスキルトレーニング ～自分の力で生きていくために必要なことランキング～		
3学年の目標	自ら学ぶ態度を養い、社会において主体的に生きる力を育成する。		
本時の目標	・「自立」について考え、自分に足りない(弱い)ところに気づき、残りの学校生活の課題・目標とすることができる。 ・自分の未来に明るい展望を持つことができる。		
段 階	学習内容	指導のねらい・学習活動	
		生徒の学習活動	教員の指導・支援
	整 列	出席番号順に10・10・5の3列横隊で並ぶ	
導 入 (15分)	「これから叶えたい100の夢、希望、目標」	・本時のねらいを確認 ・グループ分け まわりの生徒と共有 トレーニングの目的、内容について理解する。	本時の流れを提示・説明(吉田) ・4人×6G(+1人)=25人(444445) 「これから叶えたい100の夢、希望、目標」について
展 開 (80分) 休憩含む	①説明(3分) ②自分の力で生きていくために必要なことはなかに？	<配付> (5分) ・列の先頭の生徒は配付物を取りに行く。ステージへ。 ・生徒一人一人に配付し、作業がしやすいように少しずつ間隔を取る。 <個人ワーク> 4つはこちらから示す。のこり5つをふせんに記入する。(10分) ランキング付けをする。(10分) <発表> (8分) 班内で発表をする。 お互いのランキング付けの理由を聞き、色々な考えや価値観があることに気づく。 <班ワーク> (15分) 自分で作ったランキングシートを元に班ごとに相談して、1枚のランキングシートを創り上げる。自分で作った物はバラして良い。	卒業後、それぞれの進路に向かって様々な生活がスタートする。新たな生活がスタートするにあたり、自分の力で生きていくためにはどんなことが必要なのか考えさせる。 *配布物 (班ごとに用意しておく) →高谷T ・項目の入ったカード(4枚1セット×6) ・ふせん(5枚1セット×6) ・マジック6本 ・ランキングシート 6枚 あらかじめ示した4枚のカードは、セロハンテープで貼る。 *配布物 →高谷T ・ランキングシート 各班1枚
		<移動> ・A～CとD～FGで集まる。 <発表>	教員は、担当の場所に行き、生徒を待つ。 A～C：大崎T D～F：南部T

休憩	10分 ④グループ内発表	1班4分程度の時間で発表する。ランキングの高い順から、なぜそうしたのか理由もつけること。 自分が書いた5枚の付箋を、4つの自立に分類する。	(右側：大崎 T 左側：南部 T) 3班ずつ2グループに分かれ、その中で発表をする。 ＊配布物 → 高谷 T
時間があれば	(15分) ⑤4つの自立に分類 (20分)	班ごと(10分) → 全体へ(10分)	4つの自立プリント 4枚セットを各班へ 分類に迷っている生徒のサポート 4つの自立プリントを配付し、班ごとに分類させる。 分類した物を、ステージ前のホワイトボードに貼り付ける。
まとめ 15分	本時のまとめ 時間があれば	<移動> ステージ前に班ごとに整列。 <まとめ> 1) 4つの自立のキーワード「社会的自立」「生活的自立」「精神的自立」「経済的自立」を知る。 2) ワークシートに、キーワードを書き取る。 3) 自分に足りない(弱い)ところを一つあげ、残りの学校生活での目標を立てる。ワークシートに記入。	4つの自立のキーワードを提示する。 「自分の力で生きていく」＝「自立」である。高校卒業が一つのタイミング。 親はいつまでも生きていない、いつまでも学生ではいけない。社会に貢献する人材とならなければならない。 今後叶えたい夢、希望、目標達成のためにも自立は不可欠である。 担任(大崎 T) からコメント

(2) 共生社会ワークショップ

ア 高齢者との「ふれあいカフェ」交流学习

イ 幼児とのふれあい交流学习

ウ 「カレーを作ろう」ワークショップ

① 目的

身近な社会課題を異年齢交流やワークショップなどを通して体験的に学ぶことで、自らの生活に関連する諸問題について探究する手法を身につけるとともに、国籍や育った文化の違い、また意見の違いが個々人が共感的感情や合意を形成する過程を学び、それらの意義を理解する。

② 対象生徒

ア「生活と福祉」選択者 2 学年生徒 19 名

イ「保育基礎」選択者 3 学年生徒 8 名

ウ「フードデザイン」選択者 3 学年生徒 23 名

③ 活動の概要

ア 大樹町社会福祉協議会主催の「ふれあいカフェ」(毎月 1 度の定例会)を訪問し、ゲームなどで楽しく交流しました。授業で学んだ高齢者の特徴などを充分ふまえ、楽しいだけではなくリハビリにつながる要素などを盛り込んだゲームを準備した。身体を使うもの、頭を使うもの、チームワークを大切にするものの 3 種を行った。参加者はとても楽しそうで、大盛り上がりでした。

イ 大樹町認定こども園を訪問し、ゲームなどを通して楽しく交流した。授業で学んだ幼児の特徴などを充分ふまえ、楽しくてかつ社会性が身につく遊びを考え交流した。

ウ 宗教と食生活・食文化についてグループごとにプレゼンするところからスタートした。世界で暮らす人々は異なった食文化を持っていることを学ぶ。また文化の違いに加え、個人の考え方の違いにより様々な意見があることに気づき、その学びを深めるために「みんなが納得できるカレーを作る」には何が必要かを考えるワークショップを実施した。宗教上口に出来ない食材、好き嫌いがある人、こだわりのある人などの役割をロールプレイしながら、みんなが納得できるカレーを目指し議論した。

④ 成果及び評価

本校で大切にしている「共生」「共創」の学びを深めるための実践の一例である。

普段は同年代と過ごすことが多い生徒達が、異年齢(高齢者や幼児)と触れ合うことでそれぞれの年代の特徴を知るとともに、その方々と共に過ごすためには何が必要なのかを深く考える、まさに「共生」「共創」を深める学習となっている。また、ライフステージを考える際の良い実例(生きた教材)でもあり、大変貴重な学習である。

「カレーを作ろう」では、みんなが気持ちよく美味しいカレーを食べるにはどうするか、真剣な話し合い、他者の話を共感的態度で受け入れ、相手を尊重しながらも自分の意見をはっきりと伝えることの大切さと、技法を学ぶ学習である。このロールプレイを通して、人との関わり方、合意形成するときに必要なことを学んだ。

⑤ 今後の課題



共生社会を題材とした学習は、人生 100 年時代と言われるようになった今だからこそ、しっかりと学びたい領域だと考える。これからは、長い人生を見据えたライフプランを立てることが重要で、ここでの学びは自分の人生を探究するための基礎が作られるものとなっている。

本校では、学年団や教科でも取り上げて取り組んでいますが、横のつながりが薄いことが課題であると考え。良い取り組みが行われても、生徒側からみると点で終わっているので、点と点が結ばれ一つの線となり、その線を学習が深まって太いものにするには、教員同士の情報交換と相互評価を行いながら教科や分掌で横断、かつ継続した取り組みへと定着をはかる必要があると考える。

III 成果概要図

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和6年度地域探究科設置）

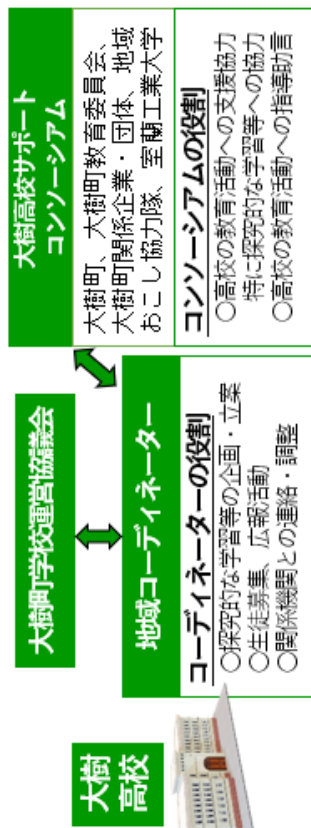
【地域探究科設置の目的】

- 地域共創・共生社会の実現とそれに必要な資質・能力を育成すること
- 「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向け、牽引・先導する役割を担うこと

【特色・魅力ある取組】

大樹スタンダード	大樹学PLUS	大樹高STEAM
ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ、インクルーシブによる授業改善	総深と台湾国際交流を核とした多様性・共生社会の理解	室蘭工業大学等との連携や市内関係企業との連携によるSTEAM教育の推進

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



【令和6年度の目標】

- (1) 新たな学校設定教科・科目を配置した教育課程を編成
- (2) ICT環境を活用した、学習者主体の個別最適化学習体制の確立
- (3) 地域の異校種と連携した「大樹学」における小中高一貫キャリア教育プログラムの完成
- (4) 各学年の探究学習を接続し、3年間を見通した探究学習のプログラムの完成
- (5) 地域社会の持続的な発展や価値の創出に向け、生徒がより主体的に関わる探究学習への転換
- (6) 生徒による地域課題の解決方策等について町への提言を踏まえ、高校生が地域が協働して町づくりに参画することにより、地域の活性化及び地域との共創の進展
- (7) 室蘭工業大学等との高大連携プログラムの推進による教科等横断的な学習の改善と発展
- (8) JAXAのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

- 達成
- △一部達成
- (1) ○
- (2) ○
- (3) ○
- (4) ○
- (5) ○
- (6) ○
- (7) ○
- (8) ○



【成果と課題】（○成果、●課題）

- 普通科改革支援事業についての町や関係者の理解の促進
- 校内における組織的な推進体制の整備
- 地域探究委員会の定期的な開催、計画の推進
- 生徒の学校や地域を愛する気持ちの表出、地域との共生・共創の実現
- 地域に係る探究活動後に実施した評価アンケートにおける満足度の上昇、又は高い数値での維持
- 生徒が進路について考える意識の向上と進路実現
- 高校入学前に比べ、高校卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった割合 100%
- 生徒の進路希望の進路実現率 100%
- 総合的な探究の時間及び「地域デザイン」の系統的な計画づくりと実践による改善の継続
- 本校におけるさらなる授業改善の取組の推進
- 持続可能な組織づくり（属人化しない、引き継ぎができる、見通しをもった人材育成、後継の育成など）
- 進路実現率100%の継続

IV 關係資料

1 学校パンフレット、学校PRポスター



北海道大樹高等学校

HOKKAIDO TAIKI HIGH SCHOOL

HIGH SCHOOL GUIDE 2024

発行元：大樹高校活性化推進協議会

教科書では、 学べないことも。

宇宙のまち大樹町で

唯一の高校が大樹高校です。

全校生徒、約100人。

ふつうの子はひとりもいません。

全員が特別で、たったひとり存在です。

いま、世の中が大きく変化しています。

これまであたりまえだったものが

みなさんが卒業するころには

新しくなっているかも知れません。

だからこそ私たちは、

人間としての「土台」を養う学びを大切にしています。

勉強や、部活や、就職のこと。

ひとりひとり違う夢や目標に向かうための、

助けになる力を身につけてほしいのです。

先生が教えるだけではありません。

地域で活躍する先輩たちも、

ふたつとない豊かな自然も、

このまちの全部があなたの頼れる教材です。

これから先の人生で、きっと何度も思い出す。

そんな3年間があなたを待っています。



地域探究科が育む、 私の生きる力

学校の外へ飛び出し、地域の現場を肌で感じ、地域の人と語り合う。教科書に書いてある社会課題が、本物に触れることでグッと身近になる。「自分ごと」で社会に貢献できる人へ。大瀬高校はそんな生徒を育成するため、希望の進路を実現するための自己探究と地域探究に力を入れて取り組んでいます。

REAL VOICE

01

大樹高校ってどんな学校？

大樹高校生に聞いてみました！

3年生

川股 愛瑠奈さん



進学はさまざまな大学進学にも対応できるカリキュラムであることはもちろん、なりたい職業を目指すための専門学校への進路指導も手厚いです。合同企業説明会や面接練習も充実していて、就職を目指す生徒にも先生方が全力でサポートしてくれます！

授業は習熟度別だから、より自分に合ったレベルの授業を受けられます。数学や物理など理系大学の試験に対応した授業もあり、国公立大学へ進学した先輩もたくさんいます！少人数で先生にも質問がしやすく、勉強が苦手でも大丈夫。成績がちゃんと伸びます！

2年生

伊藤 大稀さん



コロナですって国内だった見学旅行ですが、今年は台湾へ！大樹町と友好交流協定を結んでいて、町からの補助もあるから国内の修学旅行と同じ程度の負担金額で台湾に行くことができます。現地の大学との交流も楽しみのひとつ！過去には大樹高校から台湾の大学に進学した先輩もいるそうです。

3年生

杉森 雛梨さん



少人数の学校だからこそ、先生が一人ひとりしっかりと勉強や進路のサポートをしてくれます。教育相談週間には好きな先生と面談をすることができ、他、職員室に進路の相談に行く人も多いです。学年をまたいで生徒同士の仲もよく、休み時間や部活動の時間の先輩や後輩とのおしゃべりも楽しい時間です。



2年生

藤原 幸生さん

まだまだあるよ 大樹高校のイイところ

給食が おいしい!	制服が 可愛い!	指定校推薦が たくさん!	交通費の 補助がある!	生徒主体の イベント運営
大樹町内で作られたできたての給食(有料)を食べられます!とってもおいしいよ!	大樹高校の制服は可愛いと評判です。ネクタイの色が学年ごとに違うよ!	大学への指定校推薦枠が豊富で、人数が少ないから指定が得られやすいよ!	町外から通う生徒には、大樹町から交通費の補助があります。通学費はなんとタダ!	学校祭や体育祭は、生徒が中心となって実行します!とっても盛り上がるよ!

確かな実績は数字にも。データで見る大樹高校



※ベネッセ基礎力診断テスト結果より



高校に入ってから学力が伸びたのが嬉しい。グループワークをたくさんやるよ!

勉強が面白かったけれど、電子へのいいイメージを持てるようになった。モチベーションがあがったよ。

自分らしい進路を見つけよう 大樹高校の3年間

START

高校入学！

希望の進路実現のために
3年間がんばろう！



1年生

卒業後の進路を
イメージしてみよう

働くことや自分の適性、好きなことを知り卒業後の進路を考えはじめます。

1年生

基礎学力を
しっかり伸ばそう

習熟度別の授業で、それぞれのレベルに合わせて基礎となる学力をしっかりと身に付けます。



1年生

インターンシップで
働くことを体験しよう

町内外の希望の企業にインターンシップに行きます。プレゼンテーションで感じたことを発表します。



2年生

進路別の
選択授業がスタート

進学に対応した数学IIや化学のほか、就職に強い福祉系や商業系の選択授業が選べます。



2年生

テーマ別の地域探究
に取り組んでみよう

農林水産業や商業、教育・福祉と宇宙まで。大樹町のさまざまな現場をフィールドに探究活動に取り組みます。

学力レベル・進路別の選択授業

1年生

2年生

3年生

	基礎教育の復習	一般常識	高校基礎	自己分析	履歴書作成	面接練習
ベーシックコース	義務教育の復習	一般常識	高校基礎	自己分析	履歴書作成	面接練習
アドバンストコース	義務教育の復習	現代文	数学	英語	プレゼンテーション	一般教養
ビジネスコース	義務教育の復習	ビジネス文書	情報処理	ビジネス文書	プレゼンテーション	一般教養

進んで学びたくなる授業づくり、 が大樹高校スタンダード

生徒が自ら学びたくなる「アクティブ・ラーニング」を、全学年・全科目で取り入れています。教えることは要点を絞って最小限にし、応用段階のディスカッションや発表に取り組むことで、学びたくなるスイッチを押す授業づくりをしています。





地域の現場にダイブしよう！ /

大樹高校の地域探究活動

地域の産業や課題、可能性について学び、自分達で課題を設定して課題解決の手法を学びながら実行する実践型プログラム。農林水産業・商観光業・教育と福祉・宇宙まで。豊かな大樹町のフィールドを自由に駆け巡ろう！

グループワークが多く、コミュニケーション能力があります。



自己探究

地域人
講話

プロジェクト
設定

仮説設定

フィールド
ワーク

仮説検証

発表



プロジェクトテーマ（一例）

●フードロスを減らすために ●農産物の魅力を発信しよう！ 農産家さんと商品開発 ●田舎の魅力と都会の魅力 ●大樹町の特産品の魅力発信
など、チームごとに関心のあるテーマについて、自分たちで調べ仮説を立て検証を進めています！

進学

- | | | | |
|--|--|--|---|
| <p>【国立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城工業大学 ・北見工業大学 ・岩手県立大学 ・名寄市立大学 ・岩手県立大学 ・はこだて未来大学 | <p>【私立大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学 ・札幌大学 ・北海道情報大学 ・北海道医療大学 ・北海道千歳リハビリテーション大学 | <p>【JICAカレッジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孝広高等学校 ・北海道社会事業協会等広域連携専門学校 ・北海道看護専門学校 ・札幌医科大学 ・北海道医療大学 ・北海道千歳リハビリテーション大学 | <p>【専門学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道調理専門学校 ・エコーランド専門学校 ・北海道調理専門学校 ・北海道調理専門学校 ・北海道調理専門学校 |
|--|--|--|---|

就職

- | | | |
|--|---|--|
| <p>【公務員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大樹町役場 ・上士幌町役場 | <p>【十勝管内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 農産物 ・株式会社 舞月 ・株式会社 タイチ ・株式会社 ホタル川月苑 ・北海道ホテル ・サンテック株式会社 ・株式会社 NKインターナショナル ・株式会社 平家建設 ・石野エグゼクティブ工業株式会社 ・株式会社 ベリコ帯広 | <p>【道内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 NKユニテッド ・MSF 株式会社 十勝スピードウェイ ・UDトラックス道南株式会社 ・株式会社 ルーキーファーム ・加藤建設株式会社 ・株式会社 マリークワントコスメチックス ・日本郵便株式会社 北海道支社 ・株式会社 山内組 ・西江建設株式会社 |
|--|---|--|

1年生から進路を考える機会がたくさんあって、希望に沿ってサポートしてくれるよ！



02 在校生の声

大樹高校の「今」を知る在校生にリアルな意見を聞いてみました！



2年生
坂井 花穂 さん

大樹高校に入学してよかったことは？

コミュニケーション能力や相手に伝える力、行動力が身についたことです。授業にコミュニケーショントレーニングという授業があったり、通常の授業でもグループワークをたくさん行います。最初は慣れないかもしれませんが、慣れれば人それぞれ違う考えを共有し合い、考えを深めるのが楽しくなります！

ー 好きな授業または時間は？

ー 好きな時間は友達との時間です。休み時間にふざけ合ったり、時には勉強を教え合ったりすることで、本当にいつも学校生活の支えになっているし、青春だなって思います。



1年生
柳野 大志 さん

大樹高校に入学してよかったことは？

勉強でわからないことは先生方が優しく丁寧に教えてくれます。大樹高校は人数が少ないので、わからないところがなくなくてしっかり教えてもらうことができます。

ー 好きな授業または時間は？

授業の時間も面白いのですが、僕は部活の時間が一番好きです。クッキング部に入っているのですが、自分たちで作りたい料理を選び、作るのとても楽しいです。

先生たちや先輩が
とても優しいよ！



大樹高校に入学してよかったことは？

大樹高校に入学して、毎日とても充実した学校生活を送ることができるようになりました。授業では、基礎から教えてくれることが多いので、中学で「ここがわかっていなかったんだ！」という発見がたくさんあったんだ！という発見がたくさんあって勉強が楽しくなりました。進学を考えている人のための授業もあり、地元から進学することも考えられるようになりました。



3年生

光村七磨さん
みつむら ななむら

一番好きな授業または時間は？

学校にいる時の好きな時間は「昼休み」です。大樹高校の昼休みは50分もあり、入学当初は時間の使い方がわからずにいましたが、今では授業の復習・予習をしたり、友達や先生とおしゃべりをして楽しんでいます。時間の使い方を工夫するだけで有意義な時間を過ごすことができます！

勉強したい人は大学進学レベルの勉強ができる講座があるよ。

習熟度別で中学の復習からやってくれるので、ついていけないことはありませんねでした！



進学

吉野 健介さん
よしの けんすけさん
(宝蘭工業大学)

私は人々の生活を豊かにできるロボットを作りたいと考え、ロボット工学を学べる大学に進学しました。田舎の高校から一般受験を目指して勉強し、大変な思いもしましたが、大樹高校の先生方による一人ひとりに寄り添う手厚いサポートにより、無事に学校推薦で合格しました。大学ではグループによる活動も多くありますが、大樹高校で培ったグループワーク活動の経験が大いに活かし、夢に近づけるよう勉学に励もうと思います。



就職

廣瀬 結菜さん
ひろせ ゆきなさん
(株式会社柳月)

私はお菓子が好き、人と話すのが好きだったため、十勝の方に愛されるお菓子屋で販売員として働きたいという夢があり入社致しました。面接練習では自分の良さを引き出すための沢山のアドバイスを先生方の支えもあって自信を持って本番を向かえることができ、とても感謝しています。これから最高の笑顔で、お客様にまた来たい、この販売員に接客してもらいたいと思って頂けるよう、努力したいと思っています。

大樹高校生の1日

大樹高ライフをのぞいてみよう！

～8:30

登校

バス時間を利用して、練習を怠えたり本を寝んだりする人も。町外からのバス代は大樹町が全額補助！

登校

大樹町内の生徒は徒歩や自転車、自家用車など様々。大樹町が運行するスクールバスへの乗車もできます！

大樹高校行きは「十勝バス・広尾線」！

乗校：南広野 6:32 発、中札内 7:29 発、夏別 7:42 発
乗客：大樹西本通り 16:30 発、18:00 発、最終 19:15 発（準広行線）



8:30-8:35

朝学習



休み時間の過ごし方

廊下で先輩とおしゃべり。学年に関係なく仲が良いのは少人数の学校だからこそ！先輩方も優しく面白い人ばかりです。



8:45-12:35

授業



ホームルーム

8:35-8:45



勝ち負けだけじゃない。みんなが主役の部活動 /



バレーボール部



バスケットボール部



陸上競技部



吹奏楽部



15:25 -



清掃・部活動

生徒完全下校

19:00

給食

大樹内で作られた温かい給食を食べることができます。お弁当持参も自由なので、登校時にコンビニで買ってくる生徒もいます。

昼休みの過ごし方

図書室で本を読んだり、それぞれ思い思いの時間を過ごしています。

働いているので、給食があるのは本当に助かります！(保護者)

13:25-15:15

授業

実は多い町外生！大樹高校は大樹町からの通学が4割、町外からの通学が6割と実はたくさんの方から通っています！少人数ですが新しい友達がたくさんできます。



15:15-15:25

ホームルーム



個別講習

日によって無料ごとに先生による個別講習があります。



アルバイト

大樹高校では届けを出せばアルバイトもできます。

自習

大学進学を目指す人は最終下校時刻の19時まで残って勉強することも。



「ソフトテニス面好き」
「地域探究サークル」
もあるよ！



クッキング部



美術部



茶道部





希望のタネを大きな樹に育てます。

大樹高校の一年間

4月

始業式・入学式
生徒総会
新入生歓迎会

5月

高体連壮行会
高体連集約大会
1年宿泊研修

6月

3年進路強化研修

7月

学校祭
夏季休業

8月

夏季休業
オープンハイスクール





7月

学校祭
夏季休業

8月

夏季休業
オープンハイスクール

9月

生徒会役員選挙
就職試験開始
終業式

10月

始業式
合唱祭
2年見学旅行(台湾)

11月

1年インターシシップ

12月

体育大会
冬季休業

1月

冬季休業
大学入学共通テスト



大勢町 身体の調子が
よく、人や町がとっ
ても温かいよ！

自由な感じで
のびのびと活
動できるよ！

大樹町からの支援

入学時の経費を 半額補助 (6万円)

入学時にかかる必要経費 (制服、教科書など) の約12万円のうち、およそ半額にあたる6万円を全家庭に支給します。

通学費用は 全額補助*

路線バスの通学費は全額助成。町外から自家用車等で通学の場合は距離に応じた通学費を助成。町内のアバートから通学する場合は月額2万円を上限とし補助します。

*居住する自治体等から通学費助成がある場合は、差額を補助

資格試験・検定の

受験料全額補助

生徒一人ひとりの学力を伸ばすためのスタディサプリの動画視聴、また学校の指定する進路実現に向けた資格試験や検定試験の合格者は、受験料の全額を補助します。

給食



希望する生徒には、大樹町の給食を提供 (有料) しています。カレーや焼きそばなど種類も豊富です！また、本校の授業で考えたメニューを提供するなど給食を通して食育にも取り組んでいます。

見学旅行、部活動 への支援



台湾への見学旅行の費用の一部を補助します。部活動に励む生徒に対し、各種大会への交通費補助や全国大会の旅費の一部助成があります。

1人1台タブレットを実現！



授業や自宅学習に利用できるタブレットを無償で全生徒に対し貸与します。入学時、新たに購入する必要はありません。

校長からのメッセージ



大樹高等学校 校長
福本 正規

「共生」と「共創」の実現を目指して
大樹高校は、令和6年度、普通科の新しい学科「地域探究科」となりました。これまでどおり、進学や就職それぞれの生徒の希望の実現につながる指導は継続され、さらに、「総合的な探究の時間」や学校設定科目「地域デザイン」などで、地域の人々との探究的な学びをおとし、多様な人と共に生きる社会を支えることができる人（共生）の育成を目指しています。中学生のみならず、新たな価値を創造できる人（共創）の育成を目指しています。中学生のみならず、北海道では唯一の「地域探究科」の生徒として力を付けるために大樹高校へきてください。



撮影協力：杉森剛梨・川股寛昭・北村七海・伊藤大稀・藤原幸生・折笠花穂・野村琉来名・坪輪花・遠見華大・若園詩庵・佐藤悠華・九目彩葉
デザイン：小野寺千穂／写真：岩崎晋示・Samuel Lee／メインコピー：荒木悠太



〒089-2155 北海道広尾郡大樹町緑町1番地 TEL: 01558-6-2063 / FAX: 01558-6-2868
Email: taiki-zo@hokkaido-c.ed.jp ホームページ: http://www.taiki.hokkaido-c.ed.jp/

北海道大樹高等学校



教科書では、 学べないことも。

宇宙のまち大樹町で

唯一の高校が大樹高校です。

全校生徒、約100人。

ふつうの子はひとりもいません。

全員が特別で、たったひとりの存在です。

いま、世の中が大きく変化しています。

これまであたりまえだったものが

みなさんが卒業するころには

新しくなっているかも知れません。

だからこそ私たちは、

人間としての「土台」を養う学びを大切にしています。

勉強や、部活や、就職のこと。

ひとりひとり違う夢や目標に向かうための、

助けになる力を身につけてほしいのです。

先生が教えるだけではありません。

地域で活躍する先輩たちも、

ふたつとない豊かな自然も、

このまちの全部があなたの頼れる教材です。

これから先の人生で、きっと何度も思い出す。

そんな3年間があなたを待っています。



地域探究科が育む、
私の生きる力

学校の外へ飛び出し、地域の現場を肌で感じ、地域の人と語り合う。教科書に書いてある社会課題が、本物に触れることでグッと身近になる。

「自分ごとで社会に貢献できる人」へ。大樹高校はそんな生徒を育成するため、希望の進路を実現するための自己探究と地域探究に力を入れて取り組んでいます。



わたしたちの声



高校生の思い

「地域探究活動では、大樹町の課題を見つけ、地域の方々と協力しながら、私たちの考えや思いを形にし、課題解決に向き合っていました」
10月16日、大樹高校3年生が町長や教育長に対して提案や質問を行う『高校生議会』を開催しました。参加した25人の生徒が10班に分かれ、さまざまな視点からまちづくりに対する意見を述べました。

18歳の未来

近年、18歳を取り巻く環

境が大きく変わりました。

公職選挙法の改正による選挙権年齢の引き下げにより、若い世代の考えが政治に反映されるようになる一方で、民法の改正により、18歳を大人として迎え入れる社会になりました。

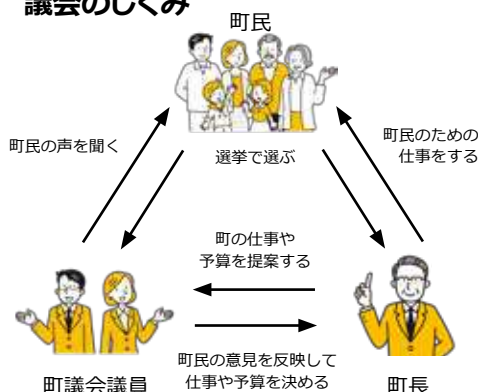
自分の暮らすまちのことや社会全体の課題について考えたり、誰かと話すことが「暮らしやすいまち」をつくるための第一歩です。

今回の特集では、生徒たちが高校生議会を迎えるまでの取り組みや、各班の一般質問の内容などを紹介します。

議会とは？

大樹町を暮らしやすいまちにするためには、町民が話し合い、何をするか決めていく必要があります。しかし、たくさんの町民が同じ場所に集まって話し合うことはできないため、選挙で選ばれた町長と町議会の議員が町民の代表として集まり、話し合いをしているところが『議会』です。

議会のしくみ



第1章

高校生議会 に向けて

高校生議会に向けて町議会を傍聴し、議場の雰囲気や議事の流れについて学びました。また、サポート授業の中で町議会議員からアドバイスを受けました。



第2章

高校生議会議開

「ジェンダー問題について」

遠藤 花 議員
北村 七海 議員

3班

答

ＬＧＢＴ理解増進法に則り、多様性理解の増進が図られるよう、広報活動や相談窓口体制の整備などの施策を講じる必要があると認識。総合計画では、男女の枠にとらわれず、個性や能力が発揮できる社会の実現を目指し、審議会などで女性委員割合の目標値を定めている。

問

多様な性の講義、教育活動を町民や学生に向けて開催しては。第6期総合計画へのジェンダー概念の反映や、多様な性に対応する政策の必要性について、町長の認識は。

「道の駅の改善について」

中田 健太 議員
林 典行 議員
豊田 碧 議員

1班

問

台湾と友好都市であることを活かし、道の駅でお土産などを販売できないか。道の駅の道路側の壁に大きな看板や顔はめパネル、コスपीの置物を置いたりして外観の改善はできないか。

答

面白く取り組みだと思う。何を販売するか、仕入れ方法やニーズを見極め、関係団体と実現の可能性を検討したい。道の駅魅力アップに向けた検討委員会でも、幅広い方々から意見を聞き、看板設置や話題になるスポットづくりを考えた。

「大樹町の知名度を
上げるには」

近藤 朔矢 議員
坂本 大陽 議員

4
班

答

PR動画の作成は費用や技術面などで実施可能か専門事業者への業務委託も含め、観光協会と協議する。お祭りでのチーズ販売は、すでに柏林公園まつりで行っているが、引き続き関係団体と連携し検討したい。

問

町では2016年のPR動画以来、動画の投稿がなくPRが不十分。町のガイドブックと連携した飲食店紹介など新しい動画の作成が望まれる。祭りでのチーズ販売会やチーズサーモン丼試食会を行っては。

「大樹町の学校給食 無償化について」

杉森 雛梨 議員
小室 茉央 議員

2
班

問

管内の自治体では学校給食を無償化している。大樹町が無償化できない理由は、給食費の値下げ、無償化などを行うことにより、子育て支援の充実につながると考える。

答

給食費は保護者負担と学校給食法で規定。無償化は財政負担が伴い、他のサービスと調整が必要なため、無償化を行わず、公共サービスの充実に力を入れている。給食費支援として、2人目以降の小中学生の給食費の半額減免や、物価高騰後も据え置き額の給食を提供し、保護者の負担軽減を図っている。

「効果的なSNSの活用方法について」

8
班

小原 弥生 議員
松橋 杏名 議員

答

ハッシュタグを活用したフォトコンテストは町の魅力を伝える方法として素晴らしいアイデア。町の魅力が多くの人に伝わる活動を高校生と一緒に取り組みたいです。ランブづくりや花手水は、地域探究学習の一環として今後も高校生に継続していただきたいと思います。

問

町で撮った写真にハッシュタグをつけてSNSに投稿したり、フォトコンテストを開催してハッシュタグを広めては。清流まつりでのランブづくりや、宵宮祭での花手水の継続、SNSで紹介する予定は。

「大樹町の交通機関について」

5
班

山崎 永遠 議員 太田 皓貴 議員
三谷 航大 議員 川股 愛瑠奈 議員

答

デマンドバスを含めた郡部へのコミュニティバスの運行は、引き続き町民の意見を聞きながら、運行方法なども含め検討する。十勝バスの運賃補助は、大樹町交通対策連絡会議や大樹町地域公共交通会議で、必要性や有用性なども含め検討したい。

問

市街地から遠い児童生徒が休日利用できるバスを運行させては。町外への交通手段である十勝バスの料金を補助しては。補助により住みやすいまちになり、地元で働きたい人が増え、町の発展につながるのでは。

「大樹町の自然の活用方法について」

9
班

清水 泰成 議員
岡本 鈴音 議員
佐藤 亮吾 議員

答

緑地、植栽地、公園などの現状調査による解析評価と課題整理を行い、公園の再編成や機能を検討しているため、成果は今後になる。自然を感じられるアクティビティにつき方は、既存の施設を活かす方えは。自然を感じることにしている。

問

みどりの基本計画の内容と目に見える成果は。また、町の豊かな自然という観光資源を安全に楽しめられるアクティビティを作ることについて考えては。

「大樹町の福祉支援制度について」

6
班

竹田 愛菜 議員
辻 奈成 議員

答

医療系人材は、患者の医療が最優先のため、定期的な診療が外活動を行う家庭を支援する。システムの導入は、多世代交流施設設置の検討を進めていく。子育て世代のニーズを反映し、た取り組みを検討したい。

問

町の理学療法士を活用し、健康増進室での指導や実講座を行っている。高齢者が子どもの世話をしている高年齢者を取り組む大樹町で導入する考えは。

「大樹町の遊び場について」

10
班

廣瀬 結菜 議員
横山 孝也 議員

答

旧南保育園の後利用は、提案の遊び場も含め多世代交流の場。サテライトオフィスなどでの活用を検討している。子どもは、遊び場や交流の場について提案も多く要望があり、今回の提議も含め、有効な活用方法。を早急に検討していきたい。

問

旧南保育園を多世代交流ができる年齢制限のない遊び場にしたい。駐車場があり、椅子やテーブルもあるもので、親子や子どもも休憩できる。勉強スペースや、通信環境の整備により、学生が来やすくなる。

「晩成温泉について」

7
班

寺嶋 かこ 議員
山田 侑奈 議員
押切 マオ 議員

答

晩成温泉は、本年度に改修工事や浴室ガラス交換、テラス増設などを行い、さらなる魅力向上を図る。看板の設置について、必要性を調査したいが、土地所有者の使用承諾や契約手続き、賃借料も必要となるため、条件が整わないと設置できない点を理解いただきたい。

問

晩成温泉はわかりにくい場所であり、訪れにくい状況だが対策は。晩成温泉を観光資源としてどう活用していくつもりか。目につきやすい場所に看板を設置すると、さまざまな方面から人が訪れるのでは。





第3章

対話を重ねる

町長懇談会

大樹町に伝えたいこと

大樹高校の地域探究活動では、生徒自らが感じた大樹町の課題などについて探究し、試験販売などの実証実験や聞き取りによる情報収集など、さまざまな方法で解決策を模索してきました。高校生議会は、探究の成果を発揮する貴重な機会ですが、

限られた時間では全てを伝えることができないため、11月8日に大樹高校で町長懇談会を開催し、高校生と対話を重ねました。

「声」にして伝えること

大樹町の知名度を上げるための観光のこと。世代ごとの悩みを解決する子育てや福祉のこと。誰もが暮らしやすいまちをつくるため、ジェンダーの問題に向き合うこと。大樹町をより良いまちにするために、課題が尽きることはありません。大樹町に限らず、何かをより良いものにするためには、思いを「声」にして、誰かに伝えることが必要です。理想の実現に向けてさらなる探究を重ね、生徒たちが活躍することを期待しています。



▲探究の内容を町長に共有する生徒





「大 樹 学」N E W S

小中高が連携し、地域に根ざした学びでキャリアを育みます！

～ 小・中・高 今年度の振り返り ～

【小 学 校】

大樹小学校では、今年度も全学年において地域のみなさんにあたたかなご協力を頂き、大樹学について学習を深めることができました。一例として、5年生では、大樹漁業協同組合、女性部の方を招いてサケの食育を行いました。最初は、映像や定置網のモデルなどを参考に、鮭の漁についてお話を聞いたり、実際に鮭の捌き方を間近で見て調理を行ったり、オス・メスの見分け方を教わったりと、学びも食も充実した時間となりました。

今後も、大樹の豊かな自然や地域の方々の特徴ある営みを学ぶ中で、ふるさと「大樹」について考え、さらに、その一員としてのあり方を考え続けられるよう、教育活動に取り組んでいきたいと考えています。



【中 学 校】

大樹中学校では、1学年で「モデルロケット製作および発射」「野外学習で火起こし体験」「町長講話」「JAXA宇宙講座」「高校調べ」「地域おこし～大樹町を知る」を実施しました。2学年では、「職業体験学習」「宿泊学習で海洋体験」「地域おこし～大樹町を考える」「しあわせ会との交流」を実施しました。3学年では、「地域おこし～たいまつ作り」「雪印メグミルク食育出前講座」「保育実習」「大樹高校体験入学」「防災授業」を実施しました。

全学年共通して取り組んでいる「地域おこし」では、地域の方を講師として招き、直接話を聞いたり、清流祭りのたいまつを実際につくったりするなどの活動を行いました。ふるさと大樹について考え、よりよい町づくりに生徒が主体的に参画することができました。



【高 校】

令和4年度から文部科学省の普通科改革支援事業の指定を受け、令和6年度、普通科の新学科である北海道では唯一の地域探究科の設置が認可されました。

学校の外へ飛び出し、大樹町の豊かな産業や人材資源をフィールドに、自身が関心をもつ地域課題について探究活動に取り組みました。さらに、「高校生議会」の議会を深めるため、黒川町長、沼田教育長に来校していただき、懇談会を実施しました。

台湾へ見学旅行に参加し、現地で様々な人と交流し、日本との文化の違いを体感しました。特に、義守大学の学生との交流は、事前にリモート交流を行い、現地では自主研修で共に行動しました。

北海道宇宙サミットに宇宙ボランティアサークルが参加しました。全国、海外からの参加者もあり、宇宙産業の取組や課題等を聞いたり、コミュニケーションを取る事ができました。



地域の自然や人材を活用した学び「大樹学」

大 樹 小 学 校

※ 活動例

- 1 年 → 町立図書館利用学習、スペースイラストコンテスト参加 など
(歴舟川鯉のぼり見学、給食センター見学は今年度未実施)
- 2 年 → 町内探検、消防署写生会、日昭牧場見学 など
- 3 年 → 郷土資料館見学、農園活動、スペースイラストコンテスト参加 など
- 4 年 → 史跡めぐり学習、中島酪農祭体験学習、林業間伐体験
雪印×グミルク大樹工場見学 など
- 5 年 → 漁業体験学習(地引網)、ペットボトルロケット発射体験
福祉体験学習(介護・高齢者体験)、サケの食育 など
- 6 年 → 宇宙交流センターSORA見学、トーチカ・竪穴住居見学
スキー学習、室蘭工業大学との連携授業 など

大 樹 中 学 校

- 1 年 → モデルロケット製作及び発射、野外学習で火起こし体験、
町長講話、高校調べ、地域おこし～大樹町を知る
高校調べ、地域おこし～大樹町を知る
- 2 年 → 職業体験学習、宿泊学習での海洋体験、地域おこし～大樹町を考える
しあわせ会との交流
- 3 年 → 地域おこし～たいまつ作り、雪印×グミルク食育出前講座、
保育実習、大樹高校体験入学、防災授業

大 樹 高 等 学 校

- 1 年 → インターンシップ、地域ボランティア活動 など
- 2 年 → 見学旅行・台湾義守大学生との交流活動 など
JAXA大樹エアロスペーススクール参加
- 3 年 → 地域講話、地域探究活動、高校生議会、学校給食×ニュー考案
進路強化研修(町内企業等模擬面接) など

小中高を結ぶ大樹町教育委員会

ふるさと大樹町を愛し、
大樹町の将来を支え、大樹町を応援する社会人へ！